

I 2023年度 事業概要

定時社員総会報告

2023 年度社員総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を勘案し、参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮し、事前に「議決権行使書」を含む社員総会関係資料一式を正会員へ送付し、その資料に基づき 7 月 7 日に「社員総会議事事項に関する説明会」を Web 開催した。説明会において審議事項・報告事項について説明と質疑を行い、その後、会長と理事・監事は 7 月 29 日の社員総会において「議決権行使書」の賛否を確認し審議事項について決定した。

開催日時：2023 年 7 月 29 日（土曜日）午後 1 時 00 分から午後 1 時 30 分

開催場所：東京都千代田区神田須田町 1-5 翔和須田町ビル 2 階 法人事務所

出席社員数：総社員数 621 名 総社員の議決権数 621 個

出席者の確認：出席社員数 459 名（議決権行使書による）、出席社員の議決権数 459 個

定款第 18 条により、正会員 621 名中、議決権行使書提出者 459 名をもって総会が成立することが報告された。

審議事項

【第 1 号議案】2022 年度事業活動報告及び決算承認・監査報告に関する件

第 1 号議案は 459 個の賛成を得て承認された。

【第 2 号議案】理事選任に関する件

第 2 号議案は 459 個の賛成を得て原案通り原玲子氏、香春知永氏が理事に選任された。

【第 3 号議案】役員候補者選出規程の改正に関する件

今後、地区活動を推進するため、各県の活動状況や地理的条件について検討するとともに日本看護系大学協議会の災害支援対策ネットワークを始めとする関係諸団体等との整合性も勘案し、現行の地区分けを総合的に見直した新たな地区分けについて 459 個の賛成を得て承認された。

報告事項

1. 2023 年度事業活動計画及び予算に関する件

(1) 重点事業について

2023 年度重点事業について、教職員を対象にした研修会の充実として教職員の資質向上を目的とした多様な研修会を開催すること、地区活動の開始について報告があった。活動しやすい地区割りを再考しトライアル事業の募集を行い課題や効果を検討すること、また、将来を見据えた本協会の組織・活動のあり方の検討するため、将来構想検討委員会を組織し今年度の重点課題として活動を進めていくとの報告があった。

(2) 2023 年度事業活動計画

(3) 2023 年度予算

2. 規程の整備に関する件

2022 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会 決算書

(2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日)

1. 一般会計収支決算書

(収入)

(単位：円)

科 目	2022 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
会 費	61,100,000	61,700,000	△ 600,000	101%	会 費@ 300,000 × 203 校 入会金@ 200,000 × 4 校
銀 行 利 息	1,000	603	397	60%	普通預金
預 り 金	2,850,000	2,802,678	47,322	98%	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑 収 入	0	157,430	△ 157,430	0%	研究助成金の返金
(収 入 小 計)	63,951,000	64,660,711	△ 709,711	101%	
前 年 度 繰 越 金	42,711,320	42,711,320	0	100%	
合 計	106,662,320	107,372,031	△ 709,711	101%	

(支出)

科 目	2022 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
事業費	39,992,000	29,020,980	10,971,020	73%	
大 学 教 育 委 員 会	427,000	343,705	83,295	80%	
研 究 活 動 委 員 会	298,000	227,500	70,500	76%	
研 究 助 成 事 業	7,345,000	6,738,573	606,427	92%	
国 際 交 流 委 員 会	293,000	234,257	58,743	80%	
大 学 運 営 ・ 経 営 委 員 会	1,340,000	1,243,222	96,778	93%	
渉 外 委 員 会	196,000	59,199	136,801	30%	関係諸団体への往訪人数の変更による旅費の削減
広 報 委 員 会	2,743,000	2,459,703	283,297	90%	
人 件 費	8,900,000	7,474,101	1,425,899	84%	
消 耗 品 費	2,000,000	1,879,779	120,221	94%	
旅 費 交 通 費	2,000,000	943,009	1,056,991	47%	理事会等 Web 会議による旅費の削減
通 信 費	750,000	463,647	286,353	62%	振込手数料、切手購入経費の未執行
印 刷 費	2,200,000	2,037,289	162,711	93%	
賃 借 料	4,000,000	3,380,808	619,192	85%	
会 議 費	1,000,000	334,345	665,655	33%	総会経費の削減
業 務 委 託 費	1,500,000	1,132,403	367,597	75%	
特別事業(地区活動経費)	5,000,000	69,440	4,930,560	1%	Web 会議による旅費等の削減
管理費	14,440,000	12,987,740	1,452,260	90%	
人 件 費	7,200,000	7,047,033	152,967	98%	
消 耗 品 費	1,000,000	887,983	112,017	89%	
光 熱 水 費	500,000	490,935	9,065	98%	
旅 費 交 通 費	150,000	50,240	99,760	33%	選挙管理委員会 Web 会議による旅費の削減
通 信 費	700,000	655,447	44,553	94%	
印 刷 費	500,000	127,047	372,953	25%	Web 会議による資料印刷経費の削減
賃 借 料	3,200,000	2,807,220	392,780	88%	
会 議 費	50,000	10,240	39,760	20%	選挙管理委員会 Web 会議による経費の削減
業 務 委 託 費	1,000,000	781,220	218,780	78%	
保 險 料	50,000	46,955	3,045	94%	
租 税 公 課	90,000	83,420	6,580	93%	
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	0%	
退職給付引当繰入金	616,000	615,773	227	99%	
預 り 金	2,850,000	2,831,079	18,921	99%	源泉所得税、住民税、社会保険料
前 期 未 払 金	1,298,608	1,298,608	0	100%	
期 末 未 払 金	△ 1,300,000	△ 818,109	△ 481,891	63%	
予 備 費	5,000,000	0	5,000,000	0%	
(支 出 小 計)	63,896,608	46,936,071	16,960,537	73%	
次 年 度 繰 越 金	42,765,712	60,435,960	△ 17,670,248	141%	
合 計	106,662,320	107,372,031	△ 709,711	101%	

2. 特別会計収支決算書

(1) 2022 年度将来事業特別会計

科 目	2022 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,260,006	11,260,006	0	100%	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
利 息 収 益	200	101	99	51%	
合 計	12,260,206	12,260,107	99	99%	

(2) 2022 年度維持管理特別会計

科 目	2022 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,062,672	11,062,672	0	100%	
繰 入 金	0	0	0	0%	
利 息 収 益	16,000	15,686	314	98%	
合 計	11,078,672	11,078,358	314	99%	

2023 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日)

1. 一般会計予算

(収入)

(単位：円)

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	差 異	備 考
会 費	63,200,000	61,100,000	2,100,000	会費@ 300,000 × 208 校、入会金@ 200,000 × 4 校
銀 行 利 息	1,000	1,000	0	普通預金
預 り 金	3,000,000	2,850,000	150,000	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑 収 入	0	0	0	
(収 入 小 計)	66,201,000	63,951,000	2,250,000	
前 年 度 繰 越 金	60,435,960	42,711,320	17,724,640	
合 計	126,636,960	106,662,320	19,974,640	

(支出)

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	差 異	備考 (使途・増減の理由など)
事業費	40,993,000	39,992,000	1,001,000	
大 学 教 育 委 員 会	1,509,000	427,000	1,082,000	(研修会を対面で開催するための増額)
研 究 活 動 委 員 会	614,000	298,000	316,000	(講師謝金と旅費の増額)
研 究 助 成 事 業	7,933,000	7,345,000	588,000	(研究助成応募システム導入)
国 際 交 流 委 員 会	822,000	293,000	529,000	(研修会を対面で開催するための増額)
大 学 運 営 ・ 経 営 委 員 会	1,928,000	1,340,000	588,000	(講師謝金減額と実態調査 5 年分費用の増額)
渉 外 委 員 会	111,000	196,000	△ 85,000	(関係諸団体往訪費用の削減)
広 報 委 員 会	4,243,000	2,743,000	1,500,000	(会報、年次報告書の発刊経費を新たに計上)
将 来 構 想 検 討 委 員 会	333,000	0	333,000	
人 件 費	9,000,000	8,900,000	100,000	事務局人件費 等
消 耗 品 費	2,000,000	2,000,000	0	会長表彰記念品代 等
旅 費 交 通 費	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	理事会等旅費 等
通 信 費	500,000	750,000	△ 250,000	振込手数料、切手 等
印 刷 費	100,000	2,200,000	△ 2,100,000	封筒印刷 等 (会報、年次報告書経費は広報委員会へ変更)
賃 借 料	3,500,000	4,000,000	△ 500,000	事務所賃料 等
会 議 費	600,000	1,000,000	△ 400,000	総会、理事会 等
業 務 委 託 費	1,300,000	1,500,000	△ 200,000	
特別事業 (地区活動)	5,000,000	5,000,000	0	
管理費	14,530,000	14,440,000	90,000	
人 件 費	7,500,000	7,200,000	300,000	事務局人件費 等
消 耗 品 費	800,000	1,000,000	△ 200,000	文具、会計ソフト 等
光 熱 水 費	700,000	500,000	200,000	電気水道代 (光熱費高騰のため増額)
旅 費 交 通 費	80,000	150,000	△ 70,000	監査、選挙管理委員会 等
通 信 費	750,000	700,000	50,000	切手、郵送費、電話、振込手数料 等
支 払 報 酬 費	30,000	0	30,000	メールサーバー代 (勘定科目変更)
印 刷 費	200,000	500,000	△ 300,000	コピー機利用料 等
賃 借 料	2,800,000	3,200,000	△ 400,000	事務所賃料、リース料 等
会 議 費	30,000	50,000	△ 20,000	監査、選挙管理委員会 等
業 務 委 託 費	1,500,000	1,000,000	500,000	司法書士、会計士委託契約料、Microsoft365 導入費 等
保 險 料	50,000	50,000	0	家賃保証 等
租 税 公 課	90,000	90,000	0	法人住民税、収入印紙 等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	
退職給付引当繰入金	651,000	616,000	35,000	
預 り 金	3,000,000	2,850,000	150,000	源泉所得税、住民税、社会保険料
前 期 未 払 金	818,109	1,298,608	△ 480,499	
期 末 未 払 金	△ 900,000	△ 1,300,000	400,000	
予 備 費	5,000,000	5,000,000	0	
(支 出 小 計)	65,092,109	63,896,608	1,195,501	
次 年 度 繰 越 金	61,544,851	42,765,712	18,779,139	
合 計	126,636,960	106,662,320	19,974,640	

2. 特別会計予算

(1) 2023 年度将来事業特別会計

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	12,260,107	11,260,006	1,000,101	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	
利 息 収 益	200	200	0	
合 計	13,260,307	12,260,206	1,000,101	

(2) 2023 年度維持管理特別会計

科 目	2023 年度予算	2022 年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,078,358	11,062,672	15,686	
繰 入 金	0	0	0	
利 息 収 益	16,000	16,000	0	
合 計	11,094,358	11,078,672	15,686	

理事会報告

第1回定例理事会

【開催日時】2023年5月13日（土）10時00分～11時30分

【審議事項】

1. 2023年度特別事業（地区活動）について

2023年度特別事業地区活動プロジェクトに基づき、審議し承認された。

2. 役員候補者選出規程の改正案（区分け改変）

都道府県別会員校一覧、新選挙区別会員校（案）に基づき、区分けを改変した場合の各地区の会員校と理事定数について説明があった。役員候補者選出規程新旧対照表（案）に基づき、区分けの変更について説明があり、役員候補者選出規程の区分けの変更については社員総会の審議事項とすることとした。

3. 理事交代について

北海道・東北地区選出の河口てる子理事と東京・甲信越地区選出の井部俊子理事の辞任に伴い、2022年度役員候補者選出選挙の次点者である日本赤十字秋田看護大学の原玲子氏と武蔵野大学の香春知永氏を役員候補者として社員総会に推薦することが承認された。

4. 2023年度定時社員総会について

2023年度定時社員総会議事次第（案）に基づき審議した。付帯事業の講演会については、「私立大学ファクトブック2022—エビデンスから見た私立大学の社会的役割—」の著者・編者である私学高等教育研究所主幹西井泰彦氏を講師とすることが承認された。2023年度定時社員総会議事次第（案）が承認された。

5. 2023年度事業活動計画と予算について

2023年度重点事業（案）、2023年度委員会等活動計画一覧（案）に基づき、2023年度事業活動計画全体の説明があり承認された。続いて各委員会委員長より2023年度事業活動計画と予算について説明があり承認された。

6. 2023年度予算書について

2023年度予算書（案）に基づき説明があり承認された。

7. 2022年度決算について

2022年度決算書（案）、2022年度財務諸表一式に基づき、説明があり承認された。

8. 監事監査について

監事監査報告書に基づき、説明があった。

【報告事項】

1. 内部監査報告

法令に抵触するような大きな違反事項はなかったと報告があり、指摘事項について説明があった。

2. 若手研究者研究助成の研究期間の延長

若手研究者研究助成の研究期間の延長について、委員会において審議し延長を承認したと報告があった。

その他

地区活動の具体的な運営方法の参考となる都道府県労働委員会関東ブロック三者連絡協議会の運営方法について情報提供があった。

第1回臨時理事会（電磁的記録による）理事会

【発信日】 2023年5月29日（月）

2023年5月29日付で島袋香子会長が当法人の理事及び監事の全員に対して役員候補者選出規程第4条第2項の改正について提案を発した。当該提案につき、2023年6月6日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので、一般社団法人日本私立看護系大学協会定款第41条の定めに基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

第2回定例理事会

【開催日時】 2023年7月29日（土）13時40分～15時00分

【審議事項】

1. 各委員会の担当理事について

委員会別理事・委員一覧に基づき説明があり、各委員会の担当理事・委員が承認された。

2. 2023年度研究助成事業採択者の決定

研究助成事業応募者・採択者・評点一覧（2018年度から2023年度）に基づき2023年度の応募者数、採択者数、および審査過程について説明があった。また、2023年度看護学研究奨励賞選考一覧・採択者一覧、2023年度若手研究者研究助成選考一覧・採択者一覧、2023年度国際学会発表助成選考一覧・採択者一覧に基づき説明があり、看護学研究奨励賞11名、若手研究者研究助成10名、国際学会発表助成5名を採択することが承認された。

3. 地区活動について

応募状況と採択結果について説明があった。

4. 2023年度自民党看護問題小委員会への要望書について

パブリックコメントに寄せられた意見、2022年度自民党看護問題小委員会への要望書に基づき説明があった。寄せられた意見を踏まえ渉外委員会で検討し、各理事へ報告した後に自民党看護問題小委員会へ要望書を提出する進め方とすることが承認された。

5. 事業活動の拡充について

事業活動の拡充について（たたき台案）に基づき説明があり、次回理事会において審議することとした。

第3回定例理事会

【開催日時】 2023年11月25日（土）15時00分～17時45分

【審議事項】

1. 事業活動の拡充

(1) リクルート社からの提案

「未来の看護師を増やす支援策」として、看護師の魅力を広く届けることで、協会と会員校それぞれの集客に繋がることを目的とした提案があった。私立看護系大学の発展へ資する長期的な視点の議論を進め、継続審議することとなった。

(2) 特別助成事業

2024 年度に「ポストコロナにおける看護学教育推進事業」を実施することとなった。

(3) 委員会活動の拡充

各委員会活動について、各委員会の課題を検討し、新たな活動をしていくことでどのような効果が見込まれるか明示する必要があるため、2024 年度事業活動計画の骨子案は各委員会において引き続き検討することとなった。

2. 選挙について

2024 年度役員候補者選手選挙のスケジュールと理事定数について確認し、選挙管理委員会委員の候補者を検討し、執行部理事に一任した。

3. 規程等の改正について

(1) 事務業務規程

事務局長の職務を規定し、新たな職制として主任を置くことが承認された。

(2) 事務局職員給与規程、交通機関に変更を生じた場合等の通勤手当の精算方法に関する要領

事務職職員の交通機関に変更が生じた場合等の通勤手当の精算方法に関する精算方法が承認された。

(3) 経理規程施行細則（別表 1 勘定科目表）

経理処理の変更、事業の拡充により必要となる勘定科目の新設と変更が承認された。

(4) 事業活動会計取扱い規程

助成事業の拡充に伴い規程の変更が承認された。

(5) 会長表彰規程（様式 1 推薦書）

推薦者の押印を削除するなど、会員校への負担軽減と合理化のための変更が承認された。

4. 2024 年度研究助成事業について

(1) 研究助成事業規程施行細則の改正

会員校数と応募件数が増加しているため、採択件数を増やすことが承認された。

(2) 2024 年度研究助成募集要項と応募書類について

応募システム導入にかかる募集要項の変更が承認された。また、雇用形態の多様化に伴う教員の定義と文言を整理し、規程を変更することが承認された。

看護学研究奨励賞の選考基準「論文としての完成度」について、選考委員会から既に査読を受けている論文についての完成度を選考基準とすることに疑問が出され、削除することが承認された。

【報告事項】

1. 各委員会事業活動報告及び会計内訳

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会の事業活動報告があった。

2. 2023 年度中期決算について

前年度と同様に推移していると報告された。

3. 看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針について

厚生労働省医政局、職業安定局および文部科学省高等教育局三者の連名で看護師等の確保を促進するための設置に関する基本的な方針が出されたことが報告された。

第4回定例理事会

【日時】2024年3月9日（土）13時00分～15時45分

【審議事項】

1. 2024年度特別事業

(1) ポストコロナにおける看護学教育推進事業

日本看護学教育評価機構への入会を促進することを基準値にして1校10万円の助成をすることとした。

(2) 看護学を学ぶ魅力発信事業

リクルート社、旺文社、進研アド社からプレゼンテーションを受け進研アド社に依頼することとした。

(3) 一般社団法人日本私立看護系大学協会附置私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）

具体的な運営方法や人材確保について継続検討していくこととした。

2. 2024年度事業活動計画と予算について

各委員会の2024年度事業内容と担当理事数を確認し、新たに地区活動委員会を新設することが承認された。また、50周年記念事業準備委員会については次期理事会で検討することとした。

3. 2024年度予算について

2024年度の特別事業として執行を予定している予算については、中長期の計画として予算配分し、理事会を対面で行うことで様々な意見も出てくることもあるので、対面での開催の可能性も考え経費を検討し、次回理事会で正式承認することとした。

4. 2024年度社員総会運営方法と付帯事業（講演会）について

2024年度社員総会は前年度同様に、正会員が会場に参集することなく、Webによる事前説明会と議決権行使書（郵送）による決議とした。6月下旬から7月初旬に、事務局より各会員校の正会員3名へ社員総会資料と議決権行使書を送付し、正会員は議決権行使書を返信用封筒にて事務局へ返送することとした。定時社員総会に先立ち、7月12日（金）に議事事項に関する説明会はインターネットを利用した遠隔会議で開催し、定時社員総会は会長および理事・監事等の少人数の出席者と議決権行使書により審議事項について決定することとした。

5. 2024年度研究助成事業選考委員について

6. 規程の改正

(1) 役員候補者選出規程、選挙管理委員会規程の改正が承認された。

(2) 委員会規程について、2024年度の委員会活動の拡充に合わせた変更が承認された。

(3) 事務局職員給与規程について、ノーワーク、ノーペイ、生理休暇について承認された。

【報告事項】

1. 選挙管理委員及び立合人について

2. 2023 年度事業活動報告と予算執行状況について

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会の事業活動報告があった。

3. 2023 年度決算について

4. 若手研究者研究助成研究期間の延長について

若手研究者研究助成の研究期間の延長について、委員会において審議し延長を承認したと報告があった。

5. 看護学教育の実態調査のデータベース化について

日本看護系大学協議会と合同で実施している「看護系大学に関する実態調査」のデータベース化（raw データの活用）について、政府統計ポータルサイト（e-Stat）等においても統計処理が可能な各データが提供されており、両会の予算などを勘案し、データベース化を進める合理的理由は少ないという結論に達したとの報告があった。

会長表彰

完成年度を迎えている会員校より、各校から推薦を受け、優れた業績をおさめた卒業生へ、表彰状と記念品を贈呈しました（対象校 196 校のうち 192 校より推薦がありました 98.0%）。

（表彰状）



（記念品）



Ⅱ 2023年度 事業活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 赤澤 千春（大阪医科薬科大学）
- 江川 隆子（関西看護医療大学）
- 原 玲子（日本赤十字秋田看護大学）
- 日高 艶子（聖マリア学院大学）

3. 2023 年度事業活動報告

(1) 研修会の開催

1) 新任教員向け研修会「私立大学とは」

- ①目的：私立大学の教職員として基本的知っておかなくてはならない考え方や、教育課程について学ぶ
- ②講師：島袋 香子 氏（北里大学）、春山 早苗 氏（自治医科大学）
- ③日時：2023 年 8 月 5 日（土）10：00～15：00
- ④開催方法：（当日）会場開催、Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（講演のみ）
（後日）オンデマンド配信

⑤プログラム：

（午前の部）

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～10：55 講演 1「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏

10：55～11：40 講演 2「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」

講師：春山 早苗 氏

11：40～12：00 質疑応答

12：00～13：00 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

13：00～14：00 グループワーク

14：00～14：55 発表・質疑応答

14：55～15：00 閉会挨拶

当日参加者：会場参加 21 名、Zoom 参加 85 名、グループワーク参加 21 名

動画配信期間：2023年8月17日～11月17日

動画視聴回数：720回

講演概要

講演1「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋香子（北里大学 学長）

- 1) 大学における教育に関する法律
- 2) 私立大学の運営に関する法律
- 3) 私立大学の教員の責務と役割



大学における教育に関する法律、教育基本法では教育の目的について第1条と第2条において5つの目標が掲げられている。そして、大学（第7条）では、「自主性、自立性その他大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない」と掲げられている。私立学校（第8条）では、「私立学校の有する公の性質及び学校教育において果たす重要な役割をかんがみ、国及び地方団体は、その自主性を尊重しつつ、助成その他の適当な方法で私立学校振興に努めなければならない」と定められ、国や地方団体は私学振興の責任があることが示された。さらに学校教育法第92条では学長から教授、准教授、助教、助手に至るまでの役割について明記されていること、第93条、第109条、第165条の2には大学の組織やメンバー、認証評価などについて定められていることを詳しく解りやすく解説された。特に認証評価については、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについて詳しく説明された。また、第166条には「大学は、学校教育法第109条第1項に規定する点検及び評価を行うにあたっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする」と必要であることが定められていることなど詳しく解説された。

私立大学の運営に関する法律、私立学校法については、令和7年度からの改正法施行について図式をもって、役員の選任、ガバナンスの改善や強化、運営基盤の強化、私立学校振興助成法などを含めわかりやすく解説された。

教育の向上のための内部質保証について、Act/Plan/Do/Checkのサイクルについてもわかりやすく説明された。こうした講義の中でやはり、私学における教員の責務と役割について、個人的にも非常に興味を持って受講した。

講義に対するアンケート結果は、大変満足、満足を含み93人（100%）であった。 文責：江川

講演2「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」

講師：春山早苗（自治医科大学 看護学部 学部長）

私立大学は、建学の精神に基づき教育・研究・地域貢献に取り組んでいることは言うまでもない。しかしながら、新人教員にとってそれは具体的にどのように取り組んでいけばよいのか全くもって未知の世界である。春山早苗教授の講演では、自治医科大学の事例を通して建学の精神に基づく教育・研究・地域貢献の連動について紹介された。



参加者 91 人の講演後のアンケート結果は、大変満足 41 人（45%）、満足 47 人（52%）、やや満足 3 人（3%）、不満足 0 人（0%）であった。自由記載においては、教育・研究・地域貢献は連動していること、大学の存続のためには社会から求められていることを知ること、自分が所属する大学の魅力を理解すること、等が重要であると記述されていた。

本講演は、止められない少子化の進行に伴い、大学の存続が問われるこの時代において、私立大学が如何に地域のニーズに応え、地域の発展に寄与することが期待されているかについての理解を促し、多くの示唆に富んだ内容であった。

文責：日高

2) 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

①目的：特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得る

②講師：西村 優紀美 氏（富山大学 保健管理センター 客員准教授）

③日時：2024 年 1 月 27 日（土）10：30～12：00

④開催方法：（当日）Zoom ウェビナーを用いたライブ配信
（後日）オンデマンド配信

⑤プログラム：

10：30～10：40 開会挨拶

10：40～11：40 講演

11：40～11：55 質疑応答

11：55～12：00 閉会挨拶

当日参加者：112 名

動画配信期間：2024 年 2 月 15 日～5 月 15 日

動画視聴回数：604 回

講演概要

講師：西村優紀美（富山大学 保健管理センター 客員准教授）
「特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実践」



障害のある学生に対する支援の例と支援に関する最近の動向が紹介された。支援は学生と基本的な学び方のルールを決め、それを確認しながら対応していくことからスタートすること、対応を進めるためには、学内の連携体制を構築することの必要性が話された。令和6年4月1日からの「合理的配慮」の義務化を受け、障害のある学生の法的支援の根拠と合理的配慮の決定の手順、合理的配慮については、学生が学ぶべきことや成績の評価基準等の学修の本質部分に変更できないが、学修するための手段や評価方法等は対応が必要であることが説明された。多くの質問があり関心の高さがうかがえた。アンケート回収率63%で、大変満足67%、満足33%で、100%が満足の回答で、自由記述では、「大学組織としての取り組みの必要性」「合理的配慮の理解を深めた」等の記載が多く見られた。また、「実習の調整等に関することの説明をもう少し聞きたかった」等の参加者のニーズが把握できた。 文責：原

(2) 委員会の開催

第1回大学教育委員会

日時：2023年10月6日（金）14：00～15：00

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：赤澤千春、江川隆子、原玲子、日高艶子（五十音順、敬称略）

議題：

- (1) 研修会（2024年1月27日開催）について
- (2) 2024年度事業活動の拡充について
- (3) 会報第51号への事業活動報告の原稿執筆の担当について
- (4) 今後のスケジュール

第2回大学教育委員会

日時：2024年2月1日（木）10：00～10：35

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：赤澤千春、江川隆子、原玲子、日高艶子（五十音順、敬称略）

議題：

- (1) 研修会（2024年1月27日開催）の振り返り
- (2) 2024年度事業活動計画について
- (3) 2023年度事業活動報告について
- (4) 今後のスケジュールについて

4. 今後の課題

看護教育を取り巻く環境は社会の変化とともにいくつかの課題をもたらしている。一つは国の中等教育の変革に伴って、大学に入学して来る学生のレディネスの変化、次いで成年年齢が18歳になったことで求められる‘大人’としての成長、そしてどこの大学でも対応に苦慮しているメンタルケアである。これらの課題に対処しつつ高等教育としての求められる変化がある。これらの課題に対して、現状を知り、それをふまえた大学教育の成果や課題について会員校と共有する機会を設ける必要がある。それらの観点から会員校のニーズを把握しつつ、次年度の事業活動計画を策定する。

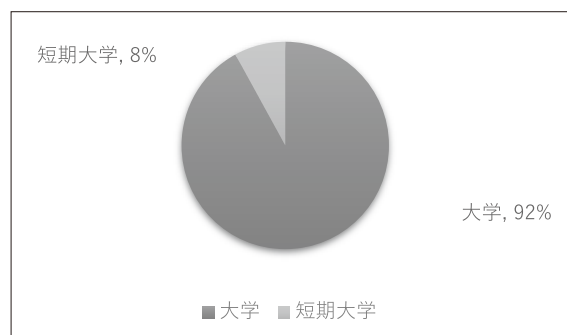
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 新任教員向け研修会「大学教育とは」 アンケート結果
 当日参加者：会場参加 21 名、Zoom 参加 85 名、動画視聴回数：720 回
 アンケート回答者：93 名

会場開催、Zoom を用いたライブ配信
 開催日：2023 年 8 月 5 日（土）
 動画配信期間：8 月 17 日～11 月 17 日

1. 参加者について

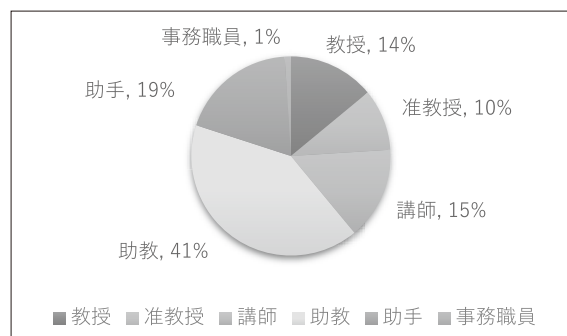
①所属

	人数	割合
大学	86 人	92%
短期大学	7 人	8%
合計	93 人	100%



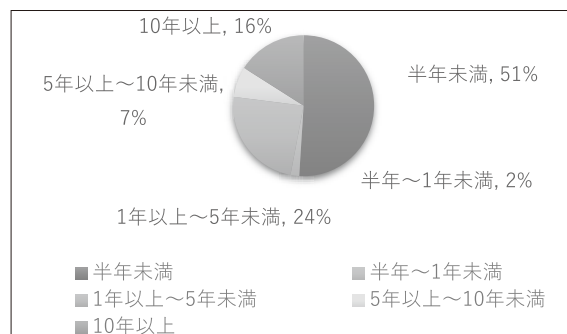
②職位

	人数	割合
教授	13 人	14%
准教授	9 人	10%
講師	14 人	15%
助教	38 人	41%
助手	17 人	19%
事務職員	1 人	1%
合計	92 人	100%



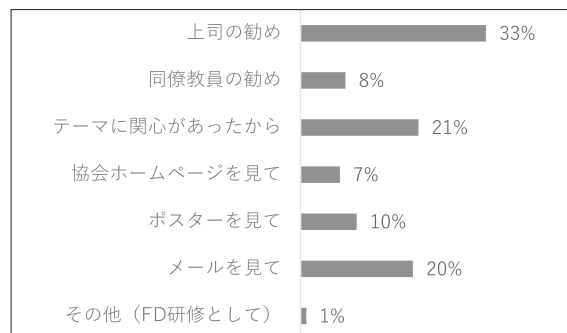
③在職期間

	人数	割合
半年未満	47 人	51%
半年～1 年未満	2 人	2%
1 年以上～5 年未満	22 人	24%
5 年以上～10 年未満	6 人	7%
10 年以上	15 人	16%
合計	92 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	37 人	33%
同僚教員の勧め	9 人	8%
テーマに関心があったから	23 人	21%
協会ホームページを見て	8 人	7%
ポスターを見て	11 人	10%
メールを見て	22 人	20%
その他（FD 研修として）	1 人	1%
合計	111 人	100%



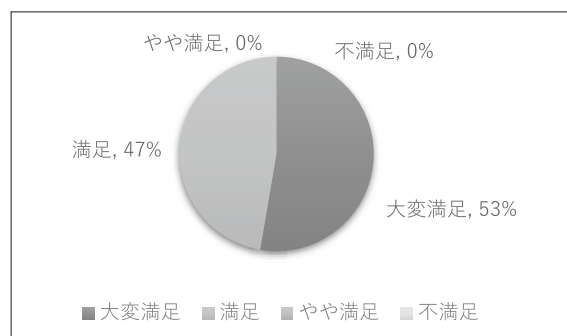
2. 講演について

①「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏（北里大学 学長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	49 人	53%
満足	44 人	47%
やや満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	93 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・自分が勤務する大学の役割、使命を改めて振り返る機会となりました。
- ・臨床 40 年、その後の転職で文化やシステムの違いに戸惑い、また大学で働くということが曖昧でしたが少し整理できたように思います。
- ・他大学の考え方や運営方法などがわかって良かった。
- ・私立大学に所属する者として、大学の理念やミッションなど大学のあり方や方向性について改めて考えることができました。また、私立学校法や教育基本法をわかりやすく解説して下さったことにより、教員としてどのように学生と向き合っていくか、学生をどのように育てていくかを学ぶことができました。
- ・現施設での勤務経験しかないのですが、私立大学教員は忙しいという内容をお聞きして、どこも同じような環境なんだということがわかりました。自分自身を高めていきたいです。
- ・具体的なことはこれからだが、今回の講演で大学の中で自分のなすべきこととして「教育・研究・実践（地域貢献）」をつなげていくという大きな方向性をつかむことができた。
- ・職位に応じた大学運営への貢献が必要なのかな…と考えていましたが、看護学部としての貢献であったり、協働という視点が、一人の組織人として必要なだと認識できました。
- ・看護専門学校の教員だったので、大学での看護教育との違いについて戸惑っていました。大学教育についてや看護大学での看護教育についてを学ぶことができました。今後は大学教員として活躍できるように、教育力と研究力を社会力を高めていきたいと思いました。

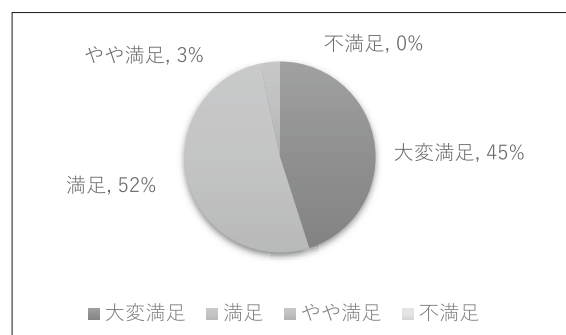
- ・教育基本法と学校教育法から大学における教育の在り方について学び、大学における理念や建学の精神がもとに大学の特性を活かした教育が求められていることを学ぶことができました。所属している大学の理念、建学の精神をしっかりと理解したうえで教育に携わっていきたいと思います。
- ・大学における教育に関することや私立大学の運営、私立大学の教員としての責務や役割など、教員としての職務を遂行していくうえで必要なことをご講演いただき、とてもわかりやすく、今後に活かしたいと思います。
- ・私立大学の成り立ちについてとても分かりやすく学ぶことができました。
- ・各私立大学の特色をアピールすることで、高校生の興味を引くことができることを学んだ。
- ・助教という立場でも、大学経営に関わっていく必要性を改めて学ぶ事が出来ました。
- ・新任教員として、私立大学の基盤から組織の成り立ちと方向について理解できる詳細なご講演でした。
- ・きちんと捉えられていなかったため、理解出来て良かった。自分の役割が分かった。
- ・私立看護系大学の社会においての役割や、大学がどういった組織で成り立つようになっているのか仕組みなどについて、理解がとても深まる講演でした。
- ・私立看護大学に勤務する教員として、法律を学ぶことや全国的な動向を学ぶことができたのはとても勉強になりました。看護系大学がかなり増えて、少子化が進む中で、大学の経営にも目を向けて、戦略的な運営を考える必要があると学びました。
- ・本学の教育を再確認するきっかけになったと思います。
- ・私立看護系大学を理解するという内容に関して、学校法人に関する主な法律に基づいて、教育・研究力、組織・役割、審議の場、認証評価など知識を得ることができました。
- ・学校や大学に関する法律などの理解が不十分だったので勉強になった。
- ・わかりやすく、理解できました。
- ・コンパクトで分かり易かった。
- ・大学教員としてイメージを持つことができた。
- ・私立大学の法的な位置づけが理解できた。
- ・教員としての心構えや考え方を知ることができた。
- ・大学の学生確保は独自性を持ってやっても難しいです。
- ・体系的に私立大学関連の法律を基にした大学運営について学ぶことができました。新しく教員になる先生方がこのような内容を学ぶ機会があるのは大変重要であると思いました。
- ・法律に基づく教育の目的を説明して頂き、教職としてどうあるべきかが具体的に理解できました。また、4月の入職時には大学の中期計画や自己評価についてあまり関心を持っておりませんでした。改めて勤めている大学が何を目標にしているのか理解するきっかけになりました。
- ・貴重な考えを聞かせていただきました。
- ・大学教員として10年以上勤めていて、あらためて本テーマについて押さえたいと思い拝見いたしました。明瞭でわかりやすく、大変理解できました。
- ・大学教員としての組織人としての自覚と責務について理解できました。業務体験型のスキルアップを良しとするのではなく、他の要因（領域長の交代等）で混乱は避け、自身の成長や能力の獲得の根拠が見える仕事の指針（マニュアル）などのしくみが確立することが大切かと思いました。
- ・忘れていたことを思い出したことで、現在の状況を見直すことができた。
- ・この講義の中で教育課程において関連法規があり、教育課程の編成にて主要概念として人間・環境・健康・看護があると習いました。また建学の精神、短期大学の教育理念を聞いていたことを思い出しながら、島袋先生の講義を聞いていろいろな面で関連していたり、重要性がより理解できました。この理解を忘れないよう日々大学教育に携わるものとして自己研鑽につとめる必要があると感じました。

②「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」

講師：春山 早苗 氏（自治医科大学 看護学部 学部長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	41 人	45%
満足	47 人	52%
やや満足	3 人	3%
不満足	0 人	0%
合計	91 人	100%



2) ご意見、感想など

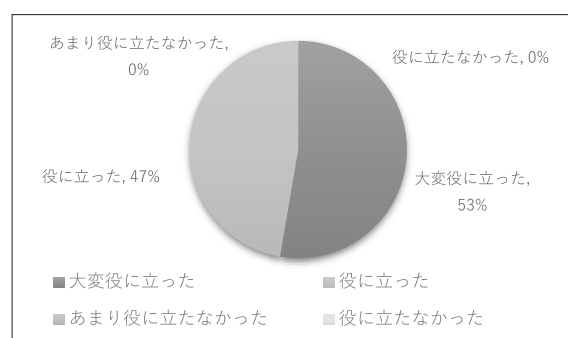
- ・ 僻地医療の取り組みを通して、大学の強みの持ち方に新しい視点が得られた。
- ・ 教育や研究、地域貢献を含む社会貢献は全て連携しており、それぞれにどう自分が組織の一員として関わらなければならないのかを学ぶことができました。
- ・ 他大学での取り組みを知ることができて良かったです。自施設における教育の独自性について考えていきたいと思いました。
- ・ 具体例と研修後の学生さんの声に大学教育の醍醐味を感じた。
- ・ 地域への貢献や建学の精神、大学訓等を共有することが、ともに教育を担う者の共通点となると理解できました。どんな看護者を養成したいのか、その大学の理念に回帰するのだ…と認識できました。看護学部としての貢献であったり、協働という視点が必要なんだと認識できました。
- ・ 3つのポリシーを実現していくために、どのような実践が可能なのかがとても理解できました。
- ・ 自治医科大学における理念と建学の精神をもとにした教育の在り方をお示ししてくださり、とても分かりやすく理解することができました。
- ・ 建学の精神に基づき、教育・研究・地域貢献を行う必要性について、具体的にご講演いただき、とてもわかりやすかったです。
- ・ なぜ、理念が大事なのか学ぶができたので、改めて勤めている大学の理念を確認し、自分にできることを考えていこうと思いました。
- ・ 自治医科大学についてはよくわかりましたが、新任教員としてどのように地域貢献を一から行っていけば良いのかは、今回の研修ではつかめなかったです。
- ・ 助手として大学の中でどのような立ち位置でどのように務めていく必要があるのかよく理解できました。今後の自分の大学での働き方に影響を受けました。
- ・ 地域貢献と研究のつながり、そのことの教育への還元を改めて実感した。
- ・ 大学が存続していくために、どんなことが今の社会から求められているのか考えていかなければいけないことや、建学の精神や3つのポリシー、そして自分の大学の魅力を、自分自身がまずは感じ理解しておくことが大事だと改めて考える機会となりました。
- ・ 自治医科大学の取り組みを学ぶことができました。教育、研究、社会貢献、大学運営と、職位とともに責任が異なりますが、大学の理念に基づき活動する中で、うまくサイクルを回していくことが大切だと思いました。
- ・ 地域貢献を如何に実践していくかが本学の課題となっており、参考になりました。
- ・ 自治医科大学については僻地医療・地域医療の貢献という大学の方針が誰からみても理解でき、その方針が一貫されているためとても参考になった。誰からみても理解でき、その方針を貫くことの大切さを感じた。

- ・3月まで看護局長をしていて、4月から大学教員をしています。講演が、看護部長さんの講演かと思うような講演で、十分に現場をわかっていて、大学でどう育て社会に送り出しているのか、建学の精神や理念がマッチしていて感銘しました。
- ・自治医科大学ならではの気がしました。自分の大学に具体的にこの内容を活かして変換するのは難しそうです。
- ・自治医科大学の地域看護に関する取り組みを聞いて、社会的意義がとても大きい取り組みであり、こういった取り組みから大学の特色が見え、これから受験する学生にとって進学を決めるうえでの参考になると考えた。自身が所属する大学の特色もアピールしていきたい。
- ・建学の精神と一貫した教育について具体的な取り組みを知ることができよく理解できた。建学の精神を理解することの大切さが理解できた。
- ・地域貢献はこれからも大事になると思います。
- ・自治医科大学を例に、建学の精神から地域貢献活動、大学院カリキュラムの編成、研究、FDまで一貫した活動をされている例についてお伺いすることができ、大変勉強になりました。
- ・建学の精神は個々の大学によって異なり、特に地域貢献は設置場所などによっても変わってくると思った。今回、自治医科大学に関する講演を聴講することでどのような地域貢献が地域側からも求められ、そしてそれに大学も応じているのかがわかった。
- ・自治医科大学の例を参考に、自身の大学について何をどんな目的で行っているのか理解していこうと思えました。
- ・大変勉強になりました。担当カ所で取り入れられるところを考えることができました。
- ・わかっているようで、腹落ちしていなかった内容だったと思います。わかりやすく、改めて大学教員としての役割を認識いたしました。
- ・大学教員としての責務と役割を改めて自覚し教育力を高めようと思った。
- ・大きな活動だったので大学の規模によるのかと思いました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	49 人	53%
役に立った	44 人	47%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	93 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・継続的に大学の特色ある取り組みの紹介をして頂きたい。
- ・私立大学の役割や大学経営に必要な考え方の基礎を学ぶことができました。
- ・新入職員として有意義な研修でした。
- ・企画の内容・開催時期とも良かったです。ハイブリッドでの開催もありが良かったです。
- ・自校の活動に役立てたい。
- ・有意義な時間でした。
- ・とても必要な研修と感じた。次週からの自分の取り組みを見直して行きたい。
- ・昨年度、オンラインで参加させていただき、講義をやはりライブで聴いてみたいと思って会場で

参加させていただきました。会場で先生方のお話しを生で伺うことは、雰囲気や熱意が伝わってきて、オンラインにはない良さがありました。

- ・私立大学の教員として大学教育ということを学習できたことで、講義内容を活かし学生の個性を伸ばしながらも、看護師としてライセンスを取得できるような支援をできる教員になりたいと思いました。そのためには自らも磨かなければならないと痛感しました。
- ・私立学校法の改正や看護師志望者減など時期的に合った内容でした。
- ・このようなことを学ぶ機会が少ないので、新人教員対象の研修は引き続き継続してほしいです。
- ・私立大学の在り方について何の縛りもない事を大事にしたいと思います。
- ・すべての教員が必要とする講演ですので、いつも定期的にこのような内容の講演を聞く機会があるとよいと思います（オンデマンドでもよいと思います）。講演資料をPDFでダウンロードできるようにしていただきたいです。
- ・法律や大学の組織の成り立ち、現在の動向について知る機会でもとてもありがたい研修でした。
- ・大学教員は自己研鑽を求められ、「主体的」「自己責任」の上で、大学教員としての役割・任務にあたっていると思います。大学教員になりたい人が着任するばかりではなく、ともすると、臨床の延長の感覚でおられる方もいらっしゃるかと考えると、本テーマの内容を、それぞれの教員がどこまで理解されているか…本当に疑問です。各大学で、このような研修の位置づけがそれぞれに設定されていると思いますが、初めて大学教員になった方の必須内容としても良いのかなと思いました。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・教育について
- ・それぞれの職位に求められる教員としてのあり方
- ・授業展開について
- ・教育と研究への取り組みについて～バランスとセルフマネジメントについて～
- ・新人教員に対して、学生への講義に関するレクチャーやワークショップなど
- ・研究について（科研費のことや研究手法というよりも多くの人の研究の実践が聞きたい）
- ・学生の主体性を働きかける指導について
- ・若手教員向けの研究に関する研修会
- ・研究または教育に特化したテーマ
- ・私立看護大学の教育について深まる内容
- ・大学の戦略的な経営について
- ・モデルコアカリキュラム改訂について
- ・教育支援の実践、国家試験対策
- ・新任教員向け研修会は、自身の教員としての役割を振り返る機会になっています。これまでのように基本的なことと、変動していることをご講演していただければと思います。
- ・今回のような内容でも、一大学を取り上げるのではなく、いくつか大学を取り上げてほしい。
- ・大学教育に初めて携わる身としては、成人学習者に対してどのように関わるべきなのか、対象となる学生をまずは理解する必要があると思います。そのため、学習の原理など、教育の基礎となる部分をテーマとして挙げて頂けると有難いです。

②開催時期

- ・土曜日（2件）
- ・長期休暇（2件）

- ・ 夏（3 件）
- ・ 冬
- ・ 4 月
- ・ 5 月（2 件）
- ・ 6 月
- ・ 7 月
- ・ 8 月（4 件）
- ・ 10 月以降
- ・ オンデマンドがあればいつでもよい

③開催方法

- ・ オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（27 件）
- ・ 会場とオンラインのハイブリッド形式（58 件）
- ・ 会場開催（5 件）

④開催場所

- ・ アルカディア市ヶ谷（4 件）
- ・ 東京（7 件）
- ・ 埼玉
- ・ 大阪
- ・ どこからでも参加しやすい場所

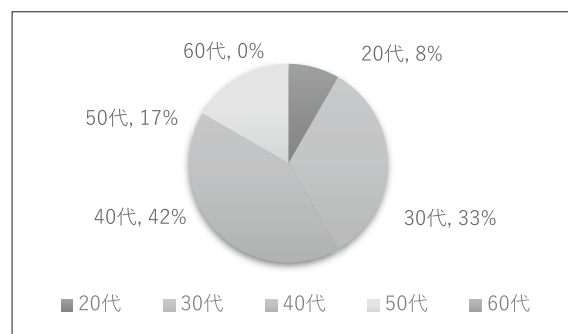
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
2023 年度 新任教員向け研修会「大学教育とは」 グループワークアンケート結果
参加者：21 名、アンケート回答者：12 名

開催日：2023 年 8 月 5 日（土）

1. 参加者について

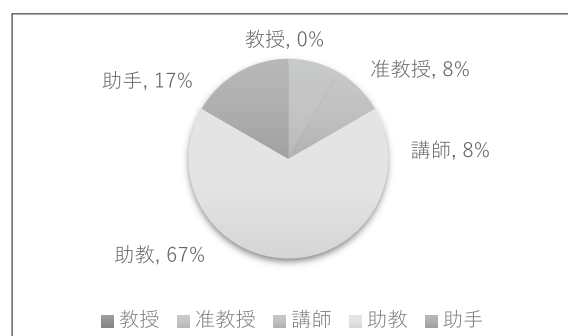
①年齢

	人数	割合
20 代	1 人	8%
30 代	4 人	33%
40 代	5 人	42%
50 代	2 人	17%
60 代	0 人	0%
合計	12 人	100%



②職位

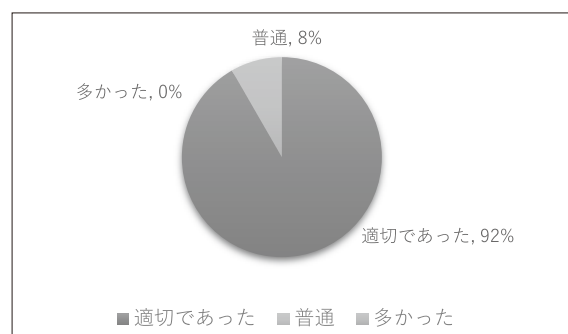
	人数	割合
教授	0 人	0%
准教授	1 人	8%
講師	1 人	8%
助教	8 人	67%
助手	2 人	17%
合計	12 人	100%



2. グループワークについて

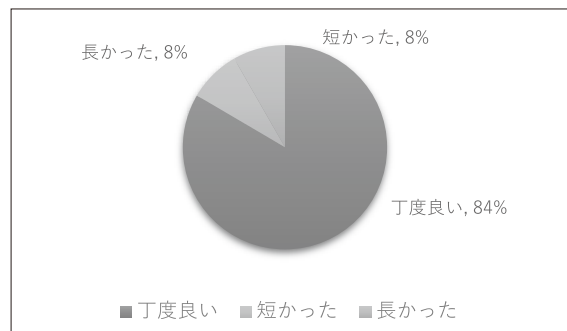
①グループの人数について

	人数	割合
適切であった	11 人	92%
普通	1 人	8%
多かった	0 人	0%
合計	12 人	100%



②グループワークの時間配分について

	人数	割合
丁度良い	10 人	84%
短かった	1 人	8%
長かった	1 人	8%
合計	12 人	100%



③グループワークに参加した理由について

- ・他の先生方のお話を聞いて、今度の自身の教員生活に役立てられればと思ったからです。他の先生方は、教員になりたくて教員になったかを聞けてよかったです。
- ・意見交換をしてみたかったため。
- ・同じ新任教員の先生と横のつながりが生まれると考えたから。
- ・新任教員として、他の大学にいらっしゃる先生方の意見を聞いたり交流をもってみたかったため。
- ・他の学校に勤務する方と交流がしたかったため。
- ・他大学の先生がどのように大学教育を考えているのか知りたいと思ったから、共通の悩みがあるかどうか。
- ・他大学の方々と交流を図ることで、様々な大学の特色や特徴について知ることや、新任教員同士どんな考えを持って勤めているのかなど知ること、自分の視野を広げたいと思い参加しました。
- ・私自身は、新任教員ではありませんでしたが、大学教育について学びたいと考え、参加させていただきました。また、本年度、本学では学部卒業の新任教員が2名入職致しました。私は、准教授として、新任教員の教育、研究活動をサポートする役割を担当させていただいており、自分の役割を考える機会になるのではと思い参加させていただきました。
- ・他の大学との交流を図りたかったから。
- ・色々な大学に勤務している先生方と情報交換したかったため。
- ・いろんな方と意見交換をしたかったため。
- ・意見交換し、交流を持ちたかったため。

④グループワークの感想

- ・新任教員同士で迷うことなど共有できたのが良かったです。また、これから大学教員として働いていく上で必要なことを一緒に考えられたので、すぐに実践するのは難しいと思うが、考えながら業務に当たっていきたいと感じました。
- ・講義を全員で再確認出来て良かった。
- ・年齢層、経験が幅広かったが、悩んでいることが共通していた。また、何のために自分が大学教育に関わろうと思ったのかを振り返りながら、日々の業務を行っていこうと思う。
- ・全国様々な大学の方とグループワークを行うことで、それぞれどんな考えを持って教育や研究、地域貢献など行われているのか知ることができました。他大学について知ること、自分の大学はどんなことが魅力としてあるのか、社会において何が求められているのか考える機会となりました。今後のためになるとても有意義な時間でした。
- ・他大学の新しく入職された皆様のご意見を伺いながら、私自身が新任から今まで受けてきた、上司からのサポートを振り返る機会となり、とても有意義な機会となりました。来週からの大学教育につなげていき、私自身も新任教員の方のよりよいサポーターに成長できるように頑張ろうと思いました。

- ・意見交換が出来て良かった。
- ・共感のできる意見交換ができてとても良かった。
- ・テーマが「講義を受けての学びや気づき」ということで、すぐにグループワークが開始になったのではじめとても緊張した。自己紹介してそれぞれの学びと気づきを発表したけど、いろんな方向に話も膨らみ、もっと意見交換したいと思った。ワールドカフェ的な感じでフリートークしながらテーマについていろいろ意見交換を1時間半くらい時間をもらえると自分的にはよかったかなと思った。そして、その中に講師の先生や教育委員会の先生方の体験談とかも話ができたらもっと嬉しかったと思った。
- ・学外の教員と意見交換できて、有意義でした。

3. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・共同研究の取り組みについて
- ・多様化する学生の対応
- ・新任教員で困っていること
- ・大学教育での自己研鑽の手段、経験談、教員交流など

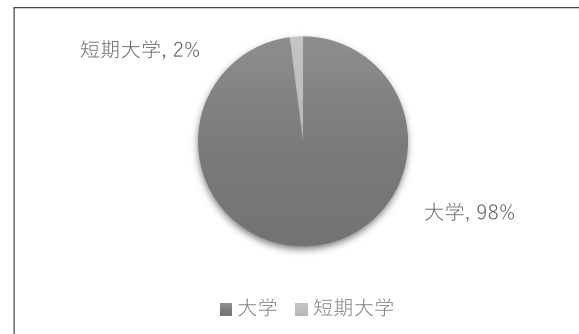
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」アンケート結果
 当日参加者：112 名、動画視聴回数：604 回
 アンケート回答者：162 名

Zoom を用いたライブ配信
 開催日：2024 年 1 月 27 日（土）
 動画配信期間：2 月 15 日～5 月 15 日

1. 参加者について

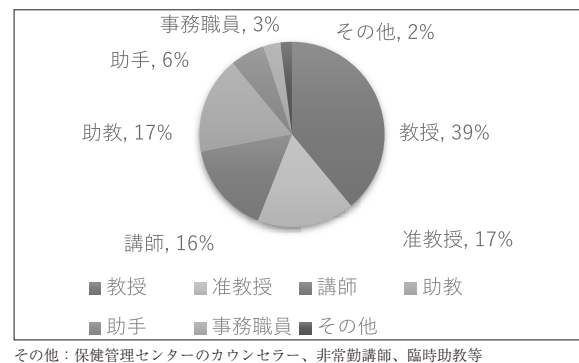
①所属

	人数	割合
大学	157 人	98%
短期大学	4 人	2%
合計	161 人	100%



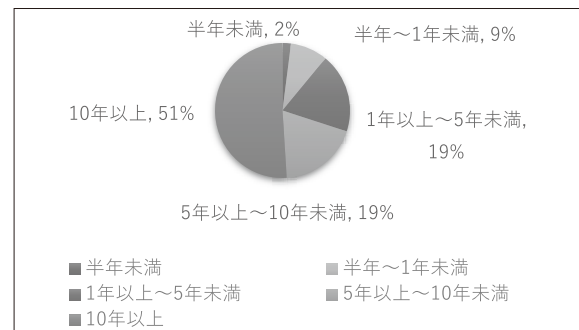
②職位

	人数	割合
教授	63 人	39%
准教授	27 人	17%
講師	25 人	16%
助教	27 人	17%
助手	10 人	6%
事務職員	5 人	3%
その他	4 人	2%
合計	161 人	100%



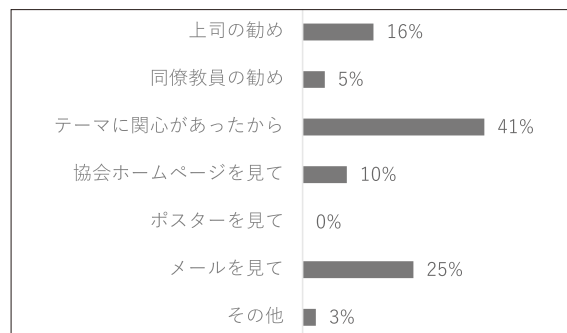
③在職期間

	人数	割合
半年未満	4 人	2%
半年～1 年未満	15 人	9%
1 年以上～5 年未満	30 人	19%
5 年以上～10 年未満	30 人	19%
10 年以上	83 人	51%
合計	162 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	38 人	16%
同僚教員の勧め	11 人	5%
テーマに関心があったから	98 人	41%
協会ホームページを見て	23 人	10%
ポスターを見て	1 人	0%
メールを見て	59 人	25%
その他	8 人	3%
合計	238 人	100%



その他：研究として取り組み中のため、学生相談室特別支援室カウンセラーであるため、学生支援委員長
4月より義務化される合理的配慮について、勉強する必要性を感じていたから、学生サポートセンター立ち上げメンバーのため
西村先生の講演を聴講したかった。発達障害について行政サービス経験（乳幼児健診）があり、成長した子供たちへの教育支援に関心があった。
身近に該当学生がいるから、既に取り組んでいるので更に必要な情報や考え方の整理のため

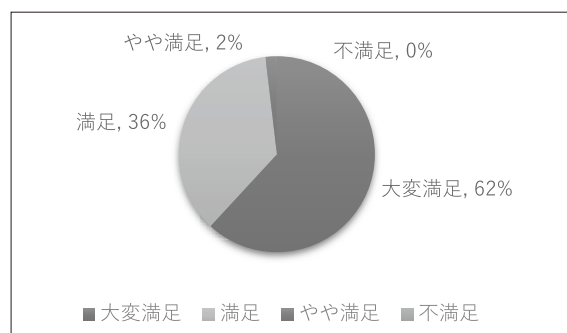
2. 講演について

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実践」

講師：西村 優紀美 氏（富山大学 保健管理センター 客員准教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	99 人	62%
満足	58 人	36%
やや満足	3 人	2%
不満足	0 人	0%
合計	160 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・とてもわかりやすかったです。学内でも共有していきたい。
- ・学部に関係ない取り組みについて学べましたが、看護学部の特化した内容をもっと学びたかったです。
- ・所属大学の体制が未整備なことを理解しました。
- ・発達障がい疑われる学生が多く、臨地実習でとても困っているため参考になりました。
- ・障害傾向がある学生支援でも補助金の対象になるのか？
- ・非常に具体的で対応のポイントが参考になりました。
- ・大変有意義な内容であった。
- ・大変具体的でわかりやすく、実践に活かせそうな内容であった。発達障害のみでなく、メンタル不調の学生も増えている中、合理的配慮の本質が良くわかりました。
- ・支援を要する学生が増えているので、大変勉強になりました。学習できる環境を可能な限り作っていききたいと思います。
- ・当大学でも合理的配慮を必要とする学生がおり、実際に支援を行っており、今回の事例が参考になりました。
- ・合理的配慮について具体的な講演をしていただき、とても参考になりました。
- ・もう少し看護に特化したお話を聞きたいと思いました。

- ・評価基準は下げずに評価方法を工夫するという点について、具体的な対応を考えるときに、様々な解釈ができるように感じたので、難しいなと感じました。
- ・学部のみで対応を考えるのではなく大学組織全体で考えることを学べた。
- ・組織的な合理的配慮への取り組みが必要であると理解できました。
- ・特別な支援を必要とする学生は多くいると思いますが、実際に支援を受けている学生はほんの一握りかと思います。組織として取り組める、取り組まなければならないという風潮が広がればよいと思います。個人では何もできない。
- ・現職では個人の努力に委ねられていますが、組織的に取り組み多くの学生が安心して学修できる環境作りが必要だと思いました。また、そのための補助があることを聞き、安心しました。
- ・学生と対話をして進めていくということが印象に残りました。
- ・具体的な内容でわかりやすかった。本学では、合理的配慮を必要とする学生への支援をするための組織を作り始めている段階であるため、組織的な対応が必要であるという共通認識を全教職員がもつ機会（FD等）が必要と思われる。
- ・最後の質問に「実習先との調整」の話が少し出ましたが、それ以前から日常的に少しずつ進められそうな、発達障害学生への実習準備について、もう少しお話を伺いたかったです。私はカウンセラー、コーディネーターの立場にいますが、看護系の教員はみなさん多忙で、なかなかプラスαのお願いをしづらい部分があります。どのようなお願いの仕方であれば受け入れやすいのか等も伺ってみたいところでした。
- ・大変参考になりました。合理的配慮については、大学組織として、共通認識を持ち対応していくことが重要であることが理解できました。
- ・支援を必要とする学生を、しっかりと皆んなで理解して対応していかないと、できない子としてだけみられて行く可能性が大きい。学園内に皆んなが理解しやすい仕組みとしてインストールして運営して行くことが大切だと思いました。また、入学生にガイダンスで支援について説明し、早くに対処していかなければならないと思いました。
- ・わかりにくかった部分が明確になりました。
- ・合理的配慮をするにあたり、大学組織としての方向性と対応を整えておくことの大切さと、本人だけでなく教員（科目担当者）との双方の対話が重要であることが再認識できました。
- ・具体的にどのように支援を検討していけばよいかを学べました。看護基礎教育の事例を取り上げて示唆をいただけましたら、更に学びが深まったのではないかと思います。
- ・年々増加傾向にある学生の問題でしたので、大変参考になりました。
- ・質問された方もみえましたが、合理的配慮が必要な学生の臨地実習に関することに、困難さを感じています。聴覚障害学生の実習を担当しましたが、指導者様にお願いすることだけでなく、受け持ち患者さんにも、マスクを外して会話をするや、ゆっくり話しをしていただくなどの対応をお願いしました。教員や指導者が配慮することは義務であるのは承知していますが、患者さんにそこまでお願いしてもよいのか、大変迷いました。学生は実習を進めていく過程でも、実習前に大学側と話し合い合意に至った実習中の配慮申請に加えた配慮を求めてくることもあり、その都度、指導者や受け持ち患者様にお願いしにいくことがありました。また、聴覚障害学生に特化した研修等があればお願いいたします。
- ・今年度タイムリーに悩んでいた内容だったので、大変勉強になりました。今後の参考にさせていただきます。
- ・2024年度から私立大学においても義務化されますが、教員の考えにかなりの隔たりがあり苦慮しております。これは合理的配慮に関する知識によるものかもしれませんので、今回のセミナーで学ばせていただいたことを伝えていき、学生が困らないような支援ができるようにしていこうと思います。
- ・日々、特性のある学生と接している教員から相談を受け、支援会議を開く立場にありますので、

大変参考になりました。講義および質疑応答の中に、知りたかったことがすべて含まれ、明日からの体制整備に役立てることが出来ます。

- ・看護系の大学ではどうしても将来、看護師として現場に出ることを考えての教育になっていく。学習方法についても同じようにできることを求めがちになる。この学生にとって今のことをどうすれば学ぶことができるのかを考えることが重要だと改めて学ぶことができた。教員自身が考え方を柔軟にしていく必要があると感じた。
- ・質問にもありましたとおり、組織としていかに合理的配慮を行うかという体制作りが困難です。その根底には、教員に配慮＝学生を甘えさせることという考えがあります。また、就職してから大変だから今のうちに特性を知っておかなければならないという一種の配慮？もあるかもしれません。合理的配慮は、学生の今の学びを保障するものだ、という考えすらも今の組織では共有は難しい…というのが正直なところですよ。
- ・具体的な内容や事例であったため、今後の学内での対応に活かしていきたいと思いました。
- ・発達障害のあると思われるが、本人・家族が認識が低い（受診を進めてもしない）中で家族および学生と個別に面談をしながら、臨地実習のサポートを行っている。病院側との調整も行っているが、本人・家族に認識してもらうことが大事だと改めて必要だと考えました。
- ・ご講演を聴かせて頂き、自分の教育を振り返る機会となりました。「看護師だから、このようにあらねばならない」ということではなく、学ぶ学生がどのような力を持っていて、どのようになりたいのか、対話を通して支えるという支援者としての態度を常に振り返りながら教育に携わる者でありたいと思いました。
- ・具体的内容で参考になった。
- ・とても勉強になりました。具体的な方法の他、動向などのデータや法的根拠を知ることができ、学内での指導の統一に役立て、実践したいと思います。
- ・障害のある学生の実習を受け入れている病院側の看護師さん達の話も聞いてみたいと思いました。
- ・資格取得による就職の確保や学生の集客増加などの期待により、近年は私立大学の看護科が雨後の筍のように多くなってきました。そのため、大学入試も共通テスト利用のみで面接試験が省略される大学も少なくないと思われます。自覚のない発達障害特性を持つ学生にとっては、演習や実習場面になってから表面化してくることが多いと思います。ご提示のあった日高先生の資料も後ほど参考にさせていただきます。可能ならば、今回講演に際しての沢山ありました質疑をまとめてオンデマンドで提示していただけると幸いです。
- ・先生の講義の中でもあったように、年々支援が必要な学生が増えてきており、またその特性も多岐にわたり、学生の学びを保証するためにはどうしたらいいか教員としてどこまでどのように関わる必要があるのか戸惑い、悩むことが多かった。また、そのような学生に対して大学生としての行動、学習を行ってほしいがそれは難しいのかとあきらめてしまっていることもあった。今回の講義を聞いて、学生、教員、大学とそれぞれの立場で大学としての学びができるような支援や学生自身の力が必要であると感じた。しかし、看護を学ぶ上で対象理解は重要であるが、支援が必要な学生にとってまず対象を理解すること、病気だけを看るのではなく生活者としてケアするというのを理解してもらうのがなかなか難しいです。今後も支援が必要な学生は増えていくことも考え、このような研修会を定期的に実施していただきたいと思いました。
- ・どのような支援が必要なのか、また、支援に対する考え方がとても具体的なものでした。今後の学生教育に大いに活かしていきたいと思います。
- ・別企画で教育向上セミナーを受講させていただきました。定期的に聴いておくと、普段の自分の学生との関わりを振りかえることにつながるなと思います。なかなか、自分の感覚で「この学生は？・・・」と思うところがあり、他の教員に伝えるべきか悩むこともあります。（学生から相談を受けているわけではありませんが。）教員同士でも、学生のことを伝えられる関係性も必要だと感じました。また、そのような学生であってもよい面、優れている面が多数あると思います。

できていないことに対して視点が向いてしまいがちですが、優れている面を生かしながら、伸ばせるように対応できたらと思います。10歳程の年齢差で、経験や生活の感覚（衛生面や時間の感覚）などこんなにも違うのかと戸惑うことがあります。（患者さんの靴をまたぐ、ベッドに座る、実習着で廊下に座る、人が話しているときに飲水する、別の話をするなど）その場面で驚かされることもあります、それが特性なのか、その人の生活習慣で改善できそうなのか見極めながら、配慮申請が必要としているのかどうか、学生が発言しやすいように関われたらと思います。また、どこまで配慮すべきか、過剰に関わることがないように、大学として、組織の基準を確認しながら、支援していかなければならないのだと学びました。

- ・合理的配慮と教育的配慮（スライド36）について、大変納得して整理できたことで、これまでの自身の教育活動を確認できました。
- ・大変参考になりました。チューター制度でどうしてもこのような学生を抱えてしまいます。20人のチューターのうち3人ぐらいは何らかの疾患をかけていたり、個別対応でかなり大変です。
- ・血圧測定に関して、2つの値を一度に覚えられない学生がいる、という具体的な事例に、現在の看護学生の特別な支援を必要としている部分を感じた。
- ・具体的な取り組み内容（例）が分かりやすかった。
- ・実践の科学である看護学をどこまで支援するのか、一つひとつのケース・場面で悩むと思う。
- ・本学でも組織的に支援をする必要性がありながら体制が整っていません。体制づくりのために何かできることを行っていきたいと思いました。
- ・発達障害と思われる学生が増えていると実感しています。切り捨てるのではなく、特性を見極めながら指導が必要。特に、実習指導について、大学全体で共通理解や認識のもと意見交換しながらすすめる必要があると強く感じました。
- ・学生支援者の立場から大学の置かれている状況の変化を教えていただき、また、学生への具体的な支援策の例も示していただき、たいへん勉強になりました。
- ・大学全体として取り組むものであることがよくわかった。
- ・想像以上にたくさんの種類の配慮が求められている中で、合理的配慮ひとつとっても、教育機関ごとにできることが異なり、また持続的な配慮ができるのか、教員ごとに統一した対応が可能なのかなど考えながら支援を実施する必要があるのだと感じました。
- ・西村先生が関わってきた対象学生の特性を明らかにし、支援体制の方法をご教示いただきたいへん勉強になりました。
- ・具体的な内容であり、所属大学の現状と照らしながら理解をすることができました。
- ・組織として対応するということの大切さがわかりました。ここがぶれないようにする必要があると思います。ただ、共通認識は、非常に大変であることもわかるだけに、意見交換を重ねていく必要性を感じました。
- ・あらためて基本的なことを教えていただきとても参考になりました。
- ・これまでは、発達障害のある学生について、個人情報保護とプライバシーの尊厳から教職員間での情報共有を行ってこなかった。今後は今回の講演内容を遵守して、大学内で組織的に検討していきたい。
- ・質問の打ち切りが残念でした。
- ・もっと詳細に学びたいのでシリーズ化していただきたいと思いました。時間が短かったと感じました。
- ・わかりやすく、今後の参考にさせていただきやすい内容だったと思います。
- ・成績の伸びない学生に対して、学習障害なのか、学習の仕方がわからないのか、興味がないのかと授業の仕方に対して試行錯誤をしております。学生に対しての働きかけで学生を主として「対話すること」の実践をしていきたいと思いました。
- ・質疑応答の最後の質問で、「実習病院とともに教育支援を考えていく必要がある」というところ

について、改めて重要性を認識しました。担当領域では、大学と学生で配慮事項などを検討したうえで関連病棟へその内容（配慮内容、方法など）を伝えていました。病棟も交えて話し合う必要がある、就職後のこともともに検討するということ、確かに重要です。発達障害のある学生は、就職先で特性を理解されず、辞めることが多いように思います。

- ・薬学部教員ではありますが、医療人養成教育において配慮を必要とする学生支援の考え方やあり方をご教授頂き、大変参考になりました。一方向ではなく、何より対話が重要ということが印象に残りました。聴講の機会を与えて頂きましたことに心より感謝申し上げます。
- ・法律的根拠や支援方法など、診断の有無にかかわらずすぐに役立つ内容だった。
- ・具体的な取り組みを通して、ご説明頂いたのでもって理解しやすかったです。
- ・学習機会保証制度の内容や学内における講義中の対応については、現状行っている対応でよかったことが理解できました。しかし、臨地実習においては、学生一人にかかりきりになることが難しく、また他の学生には教員が最前線のように感じられることがあり、グループダイナミクスが悪くなったりと、通常の実習教員体制では負いきれない負担を感じることがあります。臨地実習におけるそのような対応の実際についても次の機会にご教示いただけますと幸いです。
- ・看護技術演習、実習指導や指導体制に関する配慮の具体策などをもっと聞きたいと感じた。
- ・本学におきましても支援が必要な学生が増加していることを実感しており、休学や退学等に結びついていく場合もございます。看護に関心を持ち入学した学生たちが、学ぶことを楽しみ内容を理解できるように、学びを保障するための方法を考えることの重要性を、改めて実感いたしました。組織的に対応できるように取り組んでいきたいと思います。
- ・学生の到達目標を変更するのではなく、教授方法を変更するという視点が定まっていないと混乱を招く要因となることがよくわかりました。具体的な支援の方法も多くご紹介していただいたことで、すぐに実践に繋がる内容だと思いました。
- ・2024年度から合理的配慮が民間にも義務づけされることから私学教員にとって時宜を得たテーマで非常に参考になりました。
- ・基本と具体的な内容を含めていただき分かりやすかった。
- ・教員間の認識のずれが学生支援に影響するよう感じました。組織内の学生対応について、もっと組織内で話し合える風土ができることを今後も希望します。
- ・今回講演頂いた内容は具体的な事例が豊富で大変参考になりました。
- ・年々、発達障害を疑う学生が多くなってきているように感じます。本学には学生の支援をする部門（センター）がありませんが、きめ細やかに一人一人を支援するにあたって検討する必要があるように感じました。
- ・本人の申し入れがあつての動きであることを理解しました。
- ・特別な支援を必要とする学生への配慮や支援について、具体的で分かりやすい内容であった。
- ・近年、要配慮学生がかなり増加してきた印象であったが、今回の講演でいろいろとご教授いただき大変参考になりました。
- ・看護系大学の場合、一般の大学とは違い臨地実習の場合、多くの配慮が必要になる、後半の質問で少しでいたがそこも詳しくお聞きしたい。
- ・対応に悩んでいるので大変参考になり、最新の社会情勢も知れてよかったです。
- ・本質を忘れてはいけないことを肝に銘じて支援できればと思いました。
- ・全国的にみても、支援が必要となる学生が増えてきているということに驚きました。具体的に事例を挙げながら説明をしていただけたので、自分の対応している学生と照らし合わせながら聞くことができました。
- ・対話が大切だということがよくわかりました。
- ・具体的な障害の特性、抱えやすい心理状態、支援方法をお示しいただき、非常に参考になりました。コミュニケーションをとりながら、学生個々の特性を理解し、強みを活かした支援を検討す

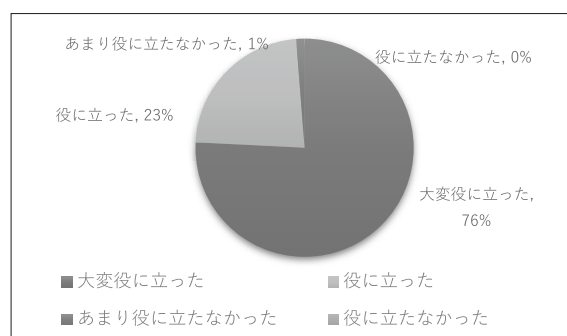
るのは、個別性のある看護の提供とも重なる部分があり、実践につなげていけるように思います。

- ・実習病院や病棟との話し合いに、まだ障害の診断を受けていない発達障害傾向（明らかにあると思われる）の学生を連れていくことは困難と思われた。本来は、そういった細やかな内容もお聞きしたかった。しかし、全体的には非常に興味深く参考になるご講演でした。組織的に取り組むことや大学や実習病院としての心構え、受け入れ態勢を整えることの重要性が実感できました。
- ・合理的配慮について、基本的な考え方を理解できました。学生本人を主体として、対話を進めていくこと、障壁を取り除くこと、具体的なステップを提示すること、など、すぐにでも取り組んでいきたいと思います。講演でお話下さったことを、教職員が共通に理解することが非常に大事だと感じました。看護師として勤務できるのかという教員の不安の声を聴くたびに、それを判断するのは周りではなく学生自身ではないかと複雑な思いを持っていましたが、質疑応答を伺って、周りとしっかり話したいと思えました。学生自身が困っていない場合、表出されない場合や、ご家族の意向との調整が難しい場合もありますが、ガイドライン等もぜひ参考にさせて頂きたいと思います。
- ・説明されていた資料が大変参考になったので、資料をいただきたいと思いました。
- ・実際に対応に困った学生のような事例が挙げられていたので非常に役立つ内容でした。
- ・本学でも何度もFDで取り上げている内容です。管理的な立場としては、教員を疲弊させることが一番の課題であると感じています。
- ・合理的配慮と教育的配慮の違い、および重要性を明確に理解できました。
- ・組織として方針を統一するということの重要性がよくわかりました。
- ・学生の「看護師になった姿」を想像してしまいがちですが、学生の「今の学びを保障する」という考え方が大事だと学べてよかった。
- ・意思の表明ができるようにすることも、合理的配慮ということがわかり、腑に落ちた。
- ・学修する機会は権利としてあり、大学側も配慮する義務があるなど総論はよく理解することができました。しかし、資格取得の専門職の養成である看護大学においては、配慮にも限界があると実感しています。現場において生身の患者さんのケアをしなければならない教育においては、社会人力の乏しい学生が増えている状況にあり、大変な苦労があることも現実です。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	122 人	76%
役に立った	37 人	23%
あまり役に立たなかった	2 人	1%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	161 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・今回の講演に関して質問など多いと思います。そのレスポンス企画をお願いしたい。
- ・このようなトレンドの課題についての企画を引き続きお願いいたします。
- ・実習や演習に関する質疑、また、他にも他者を巻き込む学生への対応などの質疑などももう少しアドバイスいただきたい部分がありました。開催方法のご検討を頂けると幸いです。（開始時間を10時とする、開催日を分けて2部制にする、など）

- ・生成 AI について
- ・また続編を開催していただきたい。
- ・大変興味深かった。
- ・他大学の現状がわかりよかった。
- ・発達障害の学生が多くなった印象は本学でもあります。診断まではされていない学生も多く、本人からの支援要請を拒否する学生もいます。学生と話し合い、情報を把握することが重要であると感じました。
- ・資料があり、大変分かり易かった。講義時間も適切で集中できた。
- ・土曜日、午前中に開催していただき参加しやすかった。
- ・ぜひ継続的に同様の内容の講演をお願いしたいです。
- ・わたしにとって、とてもタイムリーな話題で面白かったです。
- ・教育実践に資する研修には今後も参加したいと思います。
- ・今回のような企画、またお願いいたします。
- ・知りたい内容で、しかも詳しく、わかりやすかったためありがたかったです。同じテーマでも切り口を少しずつ変えて継続して研修していただけると嬉しいです。
- ・今回の企画はぜひ継続を希望します。支援室のスペシャリストと、看護学教育の経験豊富な先生とのペア、または教育上の工夫を実践している教員、実習を受け入れている病院の指導者、就職を受け入れた施設の管理者等のお話もお聞きしてみたいです。
- ・毎回、とても勉強になる企画が多く、オンラインでも勉強ができ、参加させて頂いて感謝申し上げます。
- ・どの大学も対応に悩み、困っていると思うので、とてもいいテーマと内容だったと思います。
- ・大きな学びになりました。
- ・私立大学はこれからも、様々な教育的な課題や将来的なあり方について、自己研鑽していく必要があります。そのような潮流にタイムリーな話題について研修を希望します。
- ・またこのような研修で事例などから、制度の活用を具体化できればと思います。
- ・内容のことではないのですが、いただいた資料に電子媒体からメモをしようとしたのですが、パスワードを要求されてしまい書き込めませんでした。著作権や改変のリスクに対する配慮は理解できます。しかし、このような研修資料に、講演を聞きながらメモを書き込めないのは不自由で非効率的でした。
- ・またこのような研修で事例などから、制度の活用を具体化できればと思います。
- ・今回のテーマに該当する学生が増えてきていると感じており、とても役立ちました。
- ・とても必要なことだと思います。
- ・質疑応答の続編があると良いかと思いました。
- ・発達障害等、支援が必要な学生の就職後の現任教育について、実践しているところがあれば企画してほしい。
- ・進行は良かったと思います。
- ・合理的配慮を組織として行う体制を整えるうえで、組織に所属する各個人が、基本的知識を得ることこそ、必須だと思いました。
- ・とても重要で多くの学習障害を抱えた学生が増えていく今日、この企画はタイムリーです。再度、社会的問題を抱えた障害のある学生指導について企画をお願いします。
- ・時期を得たものでした。今年の4月から私立大学でも義務化されるので学びになった。
- ・関心があり、現場でも苦慮していた内容でありましたのでとても参考になりました。
- ・今回のように、終了後の動画配信は時間のあるときに視聴できるので次回からも継続してほしいです。
- ・大学、教員として、特別な支援を必要とする学生との「対話」の重要性について再認識すること

ができた講演でした。また、実習先との調整において、学生も参加することは、今の学びを保障する上で非常に大切であると思います。参考にさせていただきたいと思います。

- ・深く学び直すために、講演資料をPDFで配布して欲しい。
- ・タイムリーな内容の情報提供をいただき感謝いたします。
- ・合理的配慮を必要とする学生は増加しているのは実感しています。また、その障がいも多様化しており、一律に「こういう人はこうすれば良い」という最適解はなかなか難しいです。次回、事前に質問や困った事例を集めて、それに答えていただくような研修会も良いのではないかと思います。例えば、臨床側に事情を説明しても「そういう人を看護師にしていいいんですか？」のような事を言われることもあり、まだまだ理解が浸透していないことを実感します。
- ・大変有意義な企画であると思います。少子化の中、入学してくる学生の学力低下、対人的問題を感じます。個々の教員だけでなく、大学全体で考えることが大切であると思いました。
- ・今後は、事例や具体策等もお聞かせいただきたいです。
- ・とてもよかったです。
- ・これからますますこういう学生が増えることが予想されるので良い学びになりました。
- ・非常に学びのある実践につながる企画でした。
- ・もっと質問時間や機会を確保していただけるとありがたいです。
- ・課題と感じているトピックで、非常に役立ちました。
- ・大変役に立つ内容でした。
- ・これからも様々な大学での取り組みの事例を提供いただける勉強会の企画をお願いいたします。
- ・有意義でした。
- ・今回のテーマのシリーズとして、看護教育における実践的で具体的な内容についての講演をお聞きしたいと思いました。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・今後も事例報告等、継続して計画していただきたい。
- ・「やさしい日本語」の演習を含んだ講義
- ・障害傾向にある学生の対応
- ・授業改善
- ・学生のメンタルヘルス対応
- ・ハラスメント関係
- ・客観的臨床能力試験
- ・今回のテーマを是非、看護に特化して行ってほしい。
- ・臨地実習における教員の立ち位置という認識が、大学と臨床で求めるものが違うように感じる。臨地実習を効果的に行えるテーマを企画いただけると参考になると思います。
- ・コロナ世代の学生への対応：友人作りが苦手なグループワークで、こちらがかなり介入しなければなりません。オンラインでの学修が続いたためか、集中力もありません。
- ・発達特性、神経症圏の問題を抱える学生への支援方法。（特別支援ではなく）
- ・看護実践力の修得を目指す教育に関すること
- ・客観的臨床能力試験について
- ・臨地実習での実践機会の提供に関すること
- ・私立大学のため、定年退職後に着任される高齢者教員が多いのですが、ジェネレーションギャップを感じています。ジェネレーションギャップへの対応方法などお教えいただけたらと思います。
- ・聴覚障害学生に関すること

- ・ユニフィケーションに関すること
- ・特別な配慮が必要な学生への対応をシリーズ化していろいろな切り口から学べるとありがたいです。
- ・発達障害に関連する内容でしたが、適応障害や不安障害の学生が増えてきております。そうした学生に対する支援の方法についても教えていただきたいです。
- ・特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際
- ・就労支援の実際
- ・臨地実習における教育的配慮
- ・大学教員としての活動（教育・研究・地域貢献・組織内での委員会活動等）の、エフォートの配分に難しさを感じております。自己研鑽・努力も必要なのは十分に承知しておりますが、他大学の先生方と交流して、大学教員としての働き方や工夫などを話し合っただけで学ぶ機会があったらいいなと思います。
- ・オンラインでの実施はとても助かります。今回のテーマでうまくいったケースなど募集してデータを集め、さらに具体的によりよい対応などご紹介いただけるといいなと思いました。
- ・今回と同じテーマを複数回シリーズでの開催してほしい。時間が少なかったのもっとお聴きしたいと思います。
- ・高校までの教育と大学教育についてこれまでよりも、デジタル化による教育が進んできたせいなのかは不明ですが、（学生の能力の個人差はありますが）教科書を見ない、長文が読めない、問われていることが理解できない、レポートが書けない、感想文レベル、文章すらも書けず箇条書き、漢字が書けない等が目立つように感じます。大学の教員としてそういった社会背景、教育背景も理解して関わる必要があると感じていますが、具体的にどうしたらいいか悩みます。高校から大学に進学する学生にとっても戸惑いが大きいのかなと思うので、教育の現場で何か参考になる研修があればと思います。
- ・「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の実習での実施状況とそのあり方
- ・本日の講義の質問の回答にございました、看護系大学の将来◎◎になるためにという考え方と、教育の本質、今、ここにある学びを大切にする学生支援との間に、様々な課題があります。教育的配慮は、他の教員からは「甘い」「責任がない」など、教員の指導観、教育観の視座で、教員間の関係性も悩むことも多いです。そのようなことを、自校のFDなどで研鑽できる「FD運営」などの企画を希望します。「FD運営」が円滑に発展する仕掛けづくり、仕組みづくりを学びたいと希望します。
- ・低学年学生向けの国家試験対策について
- ・入試方法と大学教育
- ・社会的障害を抱えた学習障害の臨地実習指導の事例についての取り組み
- ・今回のテーマのシリーズ化、現代の学生の特性と学び方に関すること
- ・発達障害がある看護学生への就職支援について
- ・看護学生への効果的な教授方法の例
- ・ハラスメント、多様性（LGBTQ など）
- ・LGBTQ の学生への対応について
- ・若手教員教育について
- ・学籍異動（休学・退学・転学）対策
- ・大学全入時代を迎えて、これから先の18歳との付き合い方、対応方法のようなテーマで専門の方からお話を聞きたいです。
- ・職場における心理的安全性について
- ・少子化による学生募集の工夫
- ・今回のような、変わりゆく学生の特性や対応について

- ・ 学生との関わり方、面談の仕方など
- ・ 教育活動と研究活動の両立やバランス
- ・ 臨地実習でのスタッフの指導は、指導ではなく、もはやハラスメントではないかという事例が少なからずあります。臨地実習における学生への倫理的配慮についても取り上げていただくと嬉しいです。
- ・ 教職員のメンタルヘルス、健康な大学環境づくり、学生と協働したカリキュラムや大学運営
- ・ 研究と教育の両立
- ・ 実習における合理的配慮

②開催時期

- ・ 1 月（6 件）
- ・ 2 月（6 件）
- ・ 3 月（8 件）
- ・ 4 月（1 件）
- ・ 5 月（2 件）
- ・ 7 月（1 件）
- ・ 8 月（6 件）
- ・ 9 月（3 件）
- ・ 新入生が入る前（1 件）
- ・ 土日（2 件）
- ・ 土曜日の午前中（1 件）
- ・ 夏休み（3 件）
- ・ オンラインならいつでも良い（1 件）
- ・ オンラインなら平日の夕方（17 時以降）（1 件）

③開催方法

- ・ オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（117 件）
- ・ 会場とオンラインのハイブリッド形式（33 件）

④開催場所

- ・ 東京（1 件）
- ・ 関西（1 件）
- ・ 東京のアクセスの良いところ（1 件）
- ・ 交通の便利の良いところ（1 件）

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の推進に関わる活動
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

麻原 きよみ（聖路加国際大学）

香春 知永（武蔵野大学）

中新 美保子（川崎医療福祉大学）

○野末 聖香（慶應義塾大学）

3. 2023 年度事業活動報告

1) 研究助成事業

2023 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～5 月 31 日に行い、7 月 8 日に選考委員会で選考した結果を第 2 回定例理事会（7 月 29 日）に提出し、看護学研究奨励賞 11 件、若手研究者研究助成 10 件、国際学会発表助成 5 件を採択することを決定した。8 月から助成金の交付を行った。

2023 年度研究助成事業選考委員会の開催

日時：2023 年 7 月 8 日（土）10：00～14：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）麻原きよみ、坂本真理子、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

（選考委員）大坂和可子、杵淵恵美子、小山友里江、近藤麻理、高田由美、泊祐子、
中岡亜希子、松岡千代（五十音順、敬称略）

2023 年度研究助成事業選考結果

①看護学研究奨励賞

19 件の応募があり、以下 11 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名	掲 載 誌
青木 裕見	聖路加国際大学	Shared decision-making interventions for people with mental health conditions (Review)	Cochrane Database Systematic Reviews
岡田 明子	北里大学	Somatic Changes Perceived by Patients With Heart Failure During Acute Exacerbation A Qualitative Study Using Text Mining	Journal of Cardiovascular Nursing
加藤 陽子	久留米大学	Development of an assessment tool for the transition of Japanese primiparas becoming mothers : Reliability and validity	Midwifery
鈴木 征吾	東京医科大学	Impact of respite care on health-related quality of life in children with medical complexity : A parent proxy evaluation	Journal of Pediatric Nursing
鈴木 大地	神奈川工科大学	The Current Concept of Paternal Bonding : A Systematic Scoping Review	Healthcare
田中 利枝	帝京大学	Benefits and issues of education program for nurse-midwives on milk expression care for preterm mothers in postpartum period	Heliyon
寺尾 奈歩子	聖カタリナ大学	A qualitative study of blood glucose and side effect self-management among patients with type 2 diabetes undergoing chemotherapy for cancer	Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing (2023), Vol. 10 (2), 100172
友滝 愛	東海大学	Factors Affecting the Critical Appraisal of Research Articles in Evidence-Based Practices by Advanced Practice Nurses : A Descriptive Qualitative Study	Nursing Open. 2023; 10 (6) : 3719-3727
真志田 祐理子	慶應義塾大学	Patterns of visiting nurse services for older adults in Japanese residential facilities : A latent class analysis	Geriatrics & Gerontology International
的場 圭	関西医科大学	Recovery-oriented daily care practice for community-based mental health service consumers in Japan : A grounded theory approach	International Journal of Mental Health Nursing
吉村 舞	日本医療大学	Development and validation of the Care Transitions Scale for Patients with Heart Failure : A tool for nurses to assess patients' readiness for hospital discharge.	Japan Journal of Nursing Science, 20 (2), e12522

②若手研究者研究助成

18 件の応募があり、以下 10 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
安藤 冴子	甲南女子大学	成人期に精神症状を併発した小児期発症てんかん患者の就労に関する質的研究
金澤 悠喜	慶應義塾大学	尿意のない児に対する新たな採尿法と従来法の検査値の比較～看護師の業務改善を目指した新たな採尿技術の開発～
河野 杏奈	帝京平成大学	在日ネパール人女性の健康課題と支援ニーズに関する調査
志水 己幸	愛知医科大学	病院で働く看護職の多重課題遂行の現状と自律性との関連
菅原 久純	東京情報大学	掛物重量を変更することによる生理的影響と関連要因の探索
中島 一成	大阪成蹊大学	臨床実践を想定した末梢静脈路確保時の最適な駆血圧負荷手技の検証と開発～超音波機器を活用した主要な末梢静脈血管の拡張状態変化に焦点を当てて～
中村 江衣	日本医療大学	在宅緩和ケアにおけるがん患者家族の well-being の分析と構造化
三輪 桂子	名古屋学芸大学	乳児の気質と母親のコーピングおよび育児ストレスとの関係に関する研究
山田 修平	東京医療保健大学	リクライニング角度や背もたれの条件が胸郭・腹壁の広がりを与える影響
渡邊 奈穂	東邦大学	看護組織における日本語版組織学習尺度の開発

③国際学会発表助成

14 件の応募があり、以下 5 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名	学 会 名
高谷 知史	大手前大学	The Influence Factors of Family Concordance between Families and Health Care Providers : Content Analysis of Semi-structured Interviews with Families Having a Chronically Ill Patient 家族と医療職者間の家族コンコーダンスに影響を及ぼす因子：慢性疾患患者を持つ家族への半構造化インタビューの内容分析	16th International Family Nursing Conference (IFNC16)
寺田 由紀子	帝京大学	IMPACT OF CARING MASCULINITIES AND SELF-CARE ON MEN'S PHYSICAL AND MENTAL HEALTH ケアリング・マスキュリニティとセルフケアが男性の身体的健康・精神的健康に及ぼす影響	International Council of Nurses Congresses
徳島 佐由美	天理大学	Necessary Nursing Skills and Techniques in Home Respite Care for Children with Sever Motor And Disability By Home-Health Care Nurses : A Delphi Method Study 訪問看護師による重症心身障がい児への在宅レスパイトケアにおける看護技術と工夫～デルファイ法による調査～	16th International Family Nursing Conference (IFNC16)
中垣 紀子	医療創生大学	The effect of the reflexology to the severely handicapped individuals living with their families-Feeling of mathers- 在宅で生活している重症心身障がい児へのリフレクソロジーの効果—母親の気持—	INC2023(International Nursing Conference 2023)

黄 智暎	武庫川女子大学	Social Burden of Gambling in Japan : An Estimation from an Online-based Cross-sectional Survey 日本におけるギャンブルの社会重荷：オンラインにおける横断調査からの推定	The 25th Annual Congress of International Society of Addiction Medicine
------	---------	---	---

2019 年度から 2023 年度の応募者数と受賞者数

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成	
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数
2019 年度	14	8	17	8	3	3
2020 年度	11	7	22	10	5	5
2021 年度	17	11	20	9	4	3
2022 年度	19	13	12	10	1	1
2023 年度	19	11	18	10	14	5
合 計	80	50	89	47	27	17

2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

(1) 第 1 回研究セミナー

①若手研究者研究助成成果報告

2020 年度・2021 年度若手研究者研究助成採択者（5 名）による研究成果報告を行った。
※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
伊藤 歩美	高崎健康福祉大学	看護大学生のキャリアコミットメントの様相
稲野辺 奈緒子	東京女子医科大学	患者満足度に基づいた看護の質を評価するための尺度開発
川原 理香	松蔭大学	人工股関節全置換術後患者のセルフマネジメント力を高める ICT を活用した学習支援プログラムの開発と評価
清水 なつ美	武蔵野大学	腎代替療法選択外来にて看護師が高齢患者とその家族に対して行う意思決定支援の実践知
鈴木 洋子	昭和大学	卒後 2 年目看護師の『リアリティショック』の解明

②講演

日時：2023 年 9 月 30 日（土）13：00～16：10

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

テーマ：「研究活動を推進するための環境の作り方」

目的：教員が研究活動を推進するための効果的な手段についての好事例や他学部との連携共同研究の仕組みなどについて、講師からそれぞれの取り組みを紹介していただく。

講師：麻原 きよみ 氏（聖路加国際大学）

森戸 雅子 氏（川崎医療福祉大学）

吉永 尚紀 氏（宮崎大学）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

- 13：10～14：25 2020年度・2021年度若手研究者研究助成採択者による研究成果報告
(5名)
- 14：25～14：40 休憩
- 14：40～15：00 講演1：研究活動を推進するための支援環境
講師：麻原 きよみ 氏
- 15：00～15：20 講演2：感覚特性サポートアプリケーション協働開発に向けた他領域
教員との連携の実際
講師：森戸 雅子 氏
- 15：20～15：40 講演3：テニュアトラック制とは？ ～若手が自立的な環境で研究力
を磨くために～
講師：吉永 尚紀 氏
- 15：40～16：00 質疑応答
- 16：00～16：10 閉会挨拶

当日参加者：59名

動画配信期間：2023年10月11日～2024年1月11日

動画視聴回数：278回

麻原先生からは、教員の研究活動を推進するための法人組織としての管理体制や教員の研究支援体制について、また研究推進のための全学的、精力的取り組みの内容とその成果についてお話しいただいた。森戸先生からは、他領域の教員との研究連携におけるチームづくりの意義、研究的発展や課題についてお話しいただいた。また吉永先生からは、若手研究者が研究力を磨くための環境づくりとしてのテニュアトラック制についてご自身の体験を踏まえお話しいただいた。研究推進のためには、大学に研究推進の文化を醸成することが重要であり、仕組みを整える具体的な方策や乗り越えるべき課題について学ぶことができた。参加者から、支援体制づくりや研究チームづくり、若手研究者支援について大変参考になったとの感想が寄せられ、それぞれの大学における研究推進活動に活かせる貴重な講演であり、満足度の非常に高いセミナーであった。



(2) 第2回研究セミナー

①若手研究者研究助成成果報告

2020年度・2021年度若手研究者研究助成採択者（5名）による研究成果報告を行った。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
石井 忍	北里大学	障がい児をもつ母親の地域活動の参加とメンタルヘルスとの関連
鈴木 慈子	仙台赤門短期大学	一般病棟に勤務する看護師の患者・家族とのコミュニケーションにおける曖昧さへの態度および感情対処傾向と終末期ケアへの態度との関連
手塚 大喜	関西医科大学	日本語版 MCI を用いた臨地実習指導における看護教員のメンタリング能力の実態
松本 晃子	藍野大学	COVID-19により修学に影響を受けた新人看護師に対する教育的支援の実態
原田 奈美	東邦大学	妊婦の出生前スクリーニング受検に関する意思決定の経験

②講演

日時：2024年2月3日（土）13：00～16：40

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：山路 野百合 氏（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：25 2020・2021年度若手研究者研究助成採択者による研究成果報告

14：25～14：40 休憩

14：40～16：10 講演「スコーピングレビュー」

講師：山路 野百合 氏（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教）

16：10～16：30 質疑応答

16：30～16：40 閉会挨拶

当日参加者：136名

動画配信期間：2024年2月19日～5月19日

動画視聴回数：816回



レビューの歴史、スコーピングレビューの特徴・定義・目的、レビューの手順、スコーピングレビュー実施に役立つサイトや動画について、丁寧に、事例を挙げながら分かりやすく具体的にお話しいただいた。手順については選択基準、検索戦略、文献選択、データの抽出、分析、結果の提示など詳細に説明していただいた。参加者の関心が高いテーマであり、プロトコール登録や査読のポイントについてなど質疑も活発に行われた。レビューを実施する上で大変参考になったとの感想が多く寄せられ、満足度の非常に高いセミナーであった。

3) 委員会

第1回委員会

日時：2023年8月28日（月）14：30～16：00

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：麻原きよみ、香春知永、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

議事：

- ① 9月30日の研究セミナーの運営について
- ② 事業活動の拡充について
- ③ 2024年度助成事業について

メール審議

日時：2023年11月1日～11月8日

議事：2024年度研究助成事業について

第2回委員会

日時：2023年2月3日（土）16：50～17：40

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：麻原きよみ、香春知永、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

議事：

- ① 2024年度研究助成事業について
- ② 2024年度事業活動計画について
- ③ 2023年度事業活動報告について

4. 今後の課題

- ① 会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進する。また改正した規程等を2024年度に適用し、運用上問題がないかを確認する。
- ② 会員校の教職員のニーズに沿ったセミナーの開催について検討し、研究セミナーを開催する。

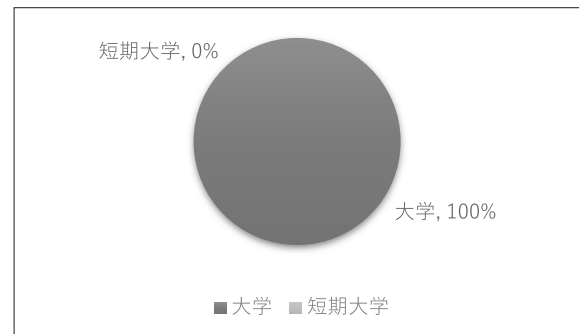
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
「2023 年度第 1 回研究セミナー」アンケート結果
当日参加者：59 名、動画視聴回数：278 回
アンケート回答者：39 名

Zoom を用いたライブ配信
開催日：2023 年 9 月 30 日（土）
動画配信期間：10 月 11 日～2024 年 1 月 11 日

1. 参加者について

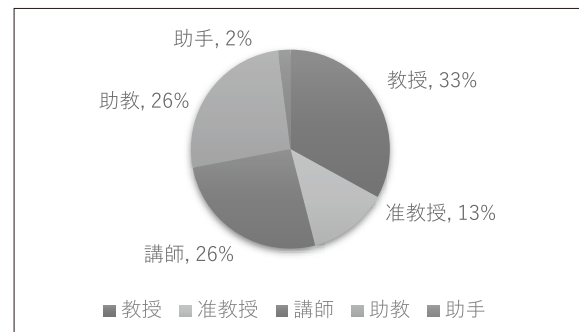
①所属

	人数	割合
大学	39 人	100%
短期大学	0 人	0%
合計	39 人	100%



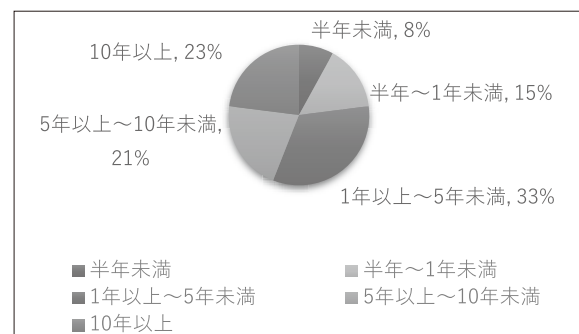
②職位

	人数	割合
教授	13 人	33%
准教授	5 人	13%
講師	10 人	26%
助教	10 人	26%
助手	1 人	2%
合計	39 人	100%



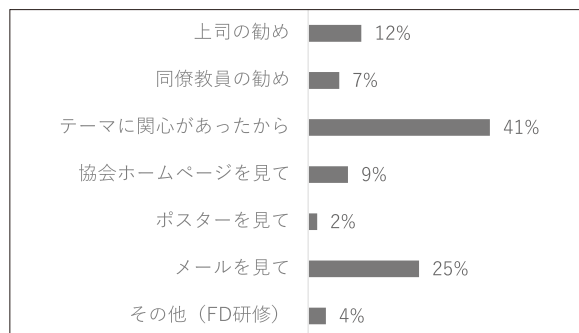
③在職期間

	人数	割合
半年未満	3 人	8%
半年～1 年未満	6 人	15%
1 年以上～5 年未満	13 人	33%
5 年以上～10 年未満	8 人	21%
10 年以上	9 人	23%
合計	39 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	7 人	12%
同僚教員の勧め	4 人	7%
テーマに関心があったから	23 人	41%
協会ホームページを見て	5 人	9%
ポスターを見て	1 人	2%
メールを見て	14 人	25%
その他（FD 研修）	2 人	4%
合計	56 人	100%



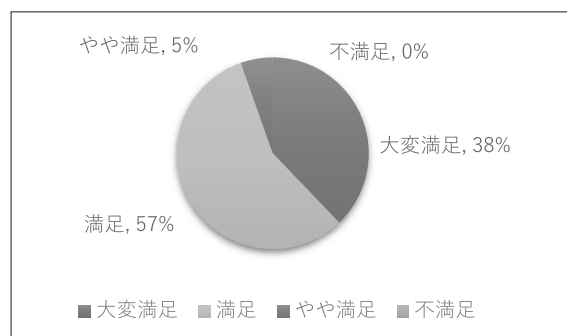
2. 講演について

①「研究活動を推進するための支援環境」

講師：麻原 きよみ 氏（聖路加国際大学）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	14 人	38%
満足	21 人	57%
やや満足	2 人	5%
不満足	0 人	0%
合計	37 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・組織的な取り組みがわかりました。
- ・普段はなかなか他大学情報を得る機会がないため、聖路加国際大学の研究支援体制についてお聞きでき、ありがたい機会だった。研究支援体制は、大学によって特長が異なりそうだと感じた。今後も情報収集し、自己の今後のキャリアプランを検討する上で活かしていきたい。
- ・研究費獲得をどのように支援しているかの仕組みが良く理解できました。
- ・科研費採択率の高い大学での取り組みを具体的に教えていただけて、たいへん参考になりました。羨ましいと感じました。
- ・教育をしつつも研究をしていこうという雰囲気があることが、とても良いと思いました。
- ・聖路加国際大学の理念とレベルの高さに感服しました。他大学での研究費の獲得状況などを知ることはなかなかできないため、大変参考になりました。
- ・研究推進のための万全の体制が整えられており、素晴らしいと思いました。
- ・大学により研究環境がおおいに違うということがわかりました。体制づくりが大切と感じました。
- ・大学によって、研究に対するサポートが充実していることに驚いた。採択数も多く、教育と研究の両立がしっかりされているかわかった。
- ・研究活動を進めるうえで非常に強力な支援体制を構築されておられ、素晴らしいと思いました。
- ・研究の支援環境として、とても参考になりました。
- ・研究するための環境が整っていない。現状ではなかなか難しい。

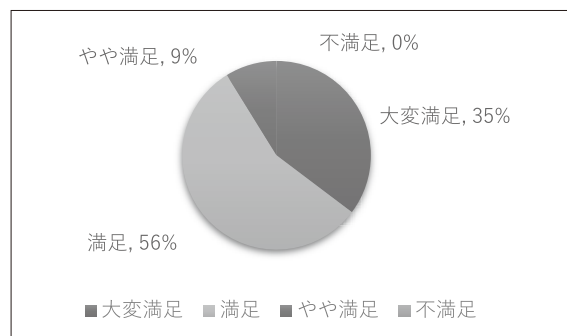
- ・良い事例としての研究に関する大学のサポート体制などが分かった。大学との交渉の事例とすることができる。

②「感覚特性サポートアプリケーション協働開発に向けた他領域教員との連携の実際」

講師：森戸 雅子 氏（川崎医療福祉大学）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	12 人	35%
満足	19 人	56%
やや満足	3 人	9%
不満足	0 人	0%
合計	34 人	100%



2) ご意見、感想など

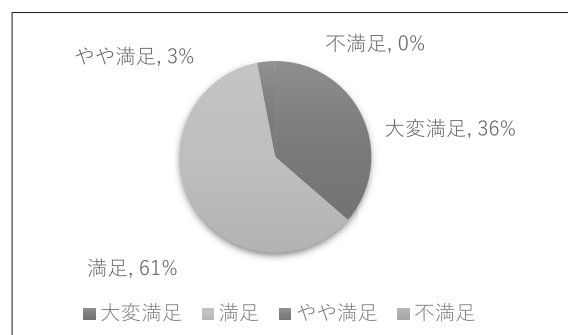
- ・他領域教員との共同研究に関心が更に高まりました。
- ・同職種が協働することはあっても、他職種とは努力しないとなかなか協働のきっかけを作りにくい。そのような中、チームを創造し、一貫して活動を継続し、成果を出されていて、その行動力と熱意に感銘を受けました。
- ・チームをどのように作成していけば良いのか、どのように他分野の教員とつながっていくか、私自身がとても苦勞しているため、今後の励みになりました。森戸先生が大切にされたチーム作りを今後の参考にさせていただきます。
- ・やはり他領域など違ったフィールドの意見が大事であるということが分かったことや、「仲間」の作り方ということも少し分かりました。
- ・そのようなチームで研究を実施したいと思いました。
- ・10年近い期間をコツコツと積み重ねてきた努力に、私も頑張ろうと思いました。
- ・学際的研究組織の構築のメリットについて分かりやすく説明頂きました。
- ・看護学以外の分野の研究者とのコミュニケーションの難しさを経験したことがあるので、他分野の研究者がチームを作り、10年間研究を続けられていることは素晴らしいと思いました。私も看護学科の中で領域を超えたチームを作り、地味に実践と研究活動をしています、それが意味のある活動なのだと再認識できました。
- ・細かく具体的な内容でしたので、とても実践的でわかりやすかったです。
- ・研究者だけでなく、様々な分野と現場（保健師や学校関係）と顔の見えるつながりを維持できているところが驚いた。
- ・先生方のご苦勞をお聞かせいただき、素晴らしい研究成果を得るための研究活動には時間や労力を惜しんではいけないと感じました。
- ・研究チームの作り方の一例として、とても参考になりました。
- ・面白い内容だったがあまり自分ができると思わなかった。
- ・具体的な内容で参考になりました。

③「テニユアトラック制とは？～若手が自立的な環境で研究力を磨くために～」

講師：吉永 尚紀 氏（宮崎大学）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	12 人	36%
満足	20 人	61%
やや満足	1 人	3%
不満足	0 人	0%
合計	33 人	100%



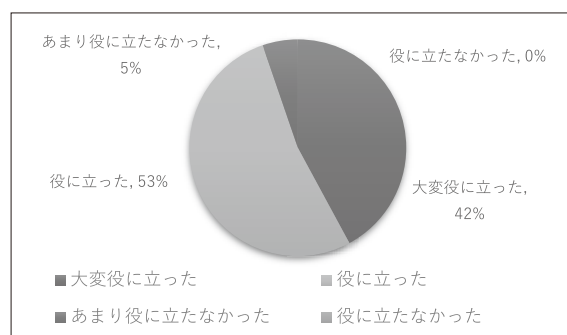
2) ご意見、感想など

- ・以前、テニユアトラック制という言葉聞き、自らも調べたが、情報が少なく十分に理解できていなかった。この度、吉永先生のご講義を受け、理解が深まった。テニユアトラックの5年間に研究成果が求められることがわかった。個人的には目標が高く厳しいと感じたが、今後の日本には、教育能力のみならず、研究能力のある教員が求められているのだろうと思った。
- ・実例をもとにご説明いただけて、制度の概要が理解できました。大変興味深かったです。
- ・非常に刺激的内容で頷くばかりでした。自身の研究姿勢を改めて問いただす良い機会となりました。
- ・大学によってテニユアトラック制に違いがあることが分かりました。5年間で18本の英語論文を採択されている先生の能力の高さは、凄いです。
- ・研究力を備えた教員育成の実際を知ることができ、大変参考になりました。
- ・5年間ではありますが、教育業務をある程度免除され、研究推進の時間を確保されることは、若手研究者にとっては大変良いことだと思いました。ただ、私学はテニユアトラック制で雇用するための財源の確保が難しいと感じました（通常の専任教員を増やしてもらうことも難しいので）。
- ・テニユアトラック制について新たな知識を得ることができて勉強になりました。
- ・「テニユアトラック制」は結果を出さなければならないという重圧を抱えている人の話を聞いたことがあったので、とても手の届かないものであると考えていた。研究者を孤立させず自立できるようにしていく組織的な取り組みが必要であるし、研究のノウハウをサポートしてくれる存在はありがたいなと思った。一人では成し遂げられないことも多いが、結果を残せる研究者自身の努力も必要だと思った。投稿するほど、研究材料はないものの、少しずつ発表や査読付き論文に出して世の中で活用してもらえようような研究をしていきたい。
- ・私自身、研究力を磨く努力をもっと持ち合わせなければいけないと感じました。
- ・制度としてもっと広まっていくと研究者の育成によいと思いました。
- ・今後、若手の教育者・研究者が働きにくくならないような仕組みにしていけないといけないと思いました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	16 人	42%
役に立った	20 人	53%
あまり役に立たなかった	2 人	5%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	38 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・学内行政に多くの時間を要し、研究時間の確保が課題ですが、このような講演をお聞きすると、頑張ってみようと思えます。
- ・職位や経験などで手上げがなかなか出来ないなので、手上げ以外の方法も「積極的」に提案して頂けるとありがたいです。
- ・やはり組織を作る、雰囲気を作る、環境を作るのは教授の意見が中心になります。この企画を教授職の先生方に聞いて頂いて、各大学に反映して頂けると嬉しいです。
- ・今回は抄録やハンドアウトを事前に配布してくださったので、今後ともお願いいたします。研究活性化に向けた各大学の取り組みについて聞けて、大変参考になりました。
- ・若手教員の研究推進力を養成するためのヒントが得られる企画で、参加してよかったと思いました。
- ・今後も、色々な先生方が経験されてきた研究活動の経過や研究費獲得までのご苦労などをお話していただきたく存じます。

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・実装研究について
- ・研究時間の確保、若手研究者のライフワークとなる研究テーマの見つけ方
- ・教育と研究の両立
- ・研究を臨床にどう活かすか
- ・若手研究者の科研費獲得に向けたメンターの実例

②開催時期

- ・8月（1件）
- ・9月（1件）
- ・3月（1件）
- ・従来通り（1件）
- ・夏休み期間（1件）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（28件）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（9件）

④開催地

- ・東京、大阪などアクセスが良い場所（1件）

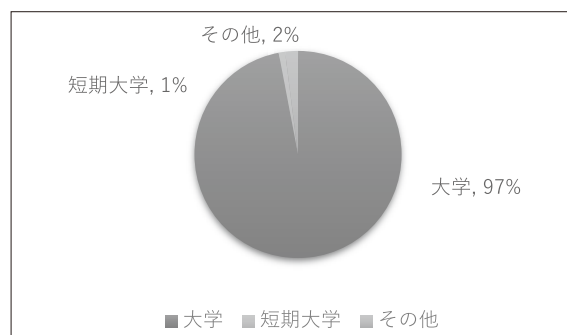
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
2023 年度第 2 回研究セミナー「スコーピングレビュー」アンケート結果
当日参加者：136 名、動画視聴回数：816 回
アンケート回答者：143 名

Zoom を用いたライブ配信
開催日：2024 年 2 月 3 日（土）
動画配信期間：2 月 19 日～5 月 19 日

1. 参加者について

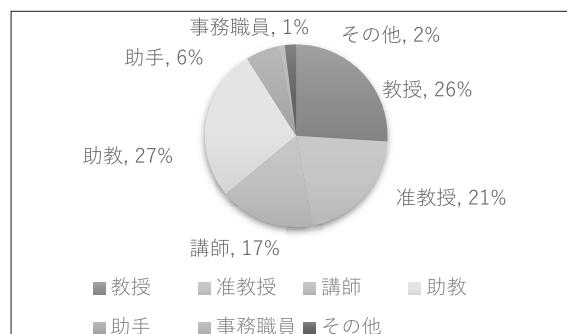
①所属

	人数	割合
大学	138 人	97%
短期大学	2 人	1%
その他	3 人	2%
合計	143 人	100%



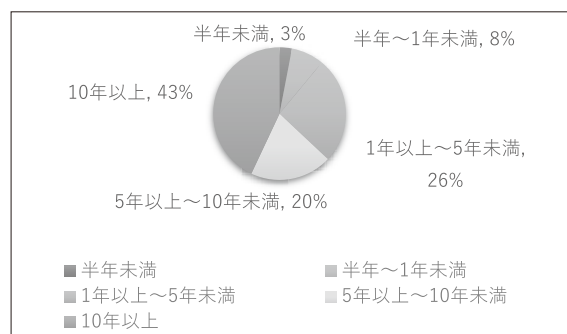
②職位

	人数	割合
教授	37 人	26%
准教授	30 人	21%
講師	24 人	17%
助教	38 人	27%
助手	8 人	6%
事務職員	1 人	1%
その他	3 人	2%
合計	141 人	100%



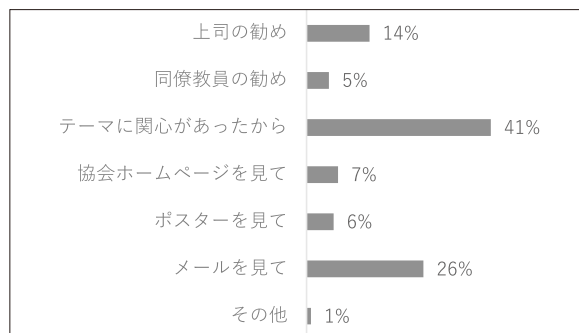
③在職期間

	人数	割合
半年未満	5 人	3%
半年～1 年未満	11 人	8%
1 年以上～5 年未満	37 人	26%
5 年以上～10 年未満	29 人	20%
10 年以上	61 人	43%
合計	143 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	28 人	14%
同僚教員の勧め	9 人	5%
テーマに関心があったから	80 人	41%
協会ホームページを見て	14 人	7%
ポスターを見て	11 人	6%
メールを見て	51 人	26%
その他	1 人	1%
合計	194 人	100%



2. 講演について

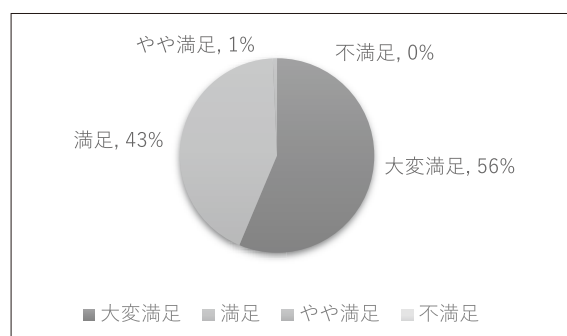
「スコーピングレビュー」

講師：山路 野百合 氏

（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 グローバルナースングリサーチセンター 特任助教）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	80 人	56%
満足	61 人	43%
やや満足	1 人	1%
不満足	0 人	0%
合計	142 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ 現在、スコーピングレビューに取り組んでいるところでしたので、大変興味深く聞かせていただきました。
- ・ 資料が分かりやすくしっかり復習したいと思います。
- ・ スコーピングレビューについて、ここまで具体的な説明をくださる講義は初めてだった。過去、スコーピングレビューに取り組んだ上で聞いたこの講義は、自身の実戦の詳細な振り返りになった。
- ・ 文献レビュー、システマティックレビュー、スコーピングレビューの違い、とてもわかりやすく説明していただき、有用な情報も提示していただき、スコーピングレビューにトライしたいと思いました。
- ・ とても丁寧に、具体的にご説明いただきとても分かりやすかったです。スコーピングレビューをやってみたいという気持ちになりました。先生のご説明の際、例えば、と例を出していただけるのがさらに分かりやすかったですので、自分でも講義の時など参考にさせていただきたいと思いました。
- ・ 1つ1つ丁寧に進めてくださり、わかりやすかったです。
- ・ 他のレビューとの違いや適応をはじめ、執筆の流れに沿ってご説明いただき大変よく理解できました。

- ・分かりやすく、見やすい資料でした。
- ・リサーチクエストの作り方、参考にできる文献なども豊富でありがたかった。
- ・スコーピングレビューに取り組んでいたところでしたので、とても参考になりました。
- ・操作の技法だけでなく、まず取り組むべきことについて学ぶことができました。
- ・優秀な若手の看護学の研究者に期待します。
- ・スコーピングレビューでの文献の検索方法があまりよく分かっていなかったのも、大変勉強になりました。
- ・資料を含め、とても分かりやすく、今後の研究活動に活かすことができる内容で、とても勉強になりました。また、オンデマンド配信もあるとのこと、繰り返し視聴できることも有り難いです。
- ・大変丁寧にご説明いただき、他のレビューとの違いや実際の方法について分かりやすかったです。
- ・とても分かりやすい説明でした。スコーピングレビューの歴史的背景から説明して下さったことで、なぜその方法を行うのかということを理解できました。
- ・今回は概要だったので、実践編で行って欲しい。
- ・レビューの歴史から最近の流れまで詳細におまとめ頂いた質の高いご講演でした。
- ・大変わかりやすく、理論も明快でした。
- ・他のレビュー方法との違いや、スコーピングレビューの特性や選択する際のポイントが理解できた。
- ・具体例を示してくださり、わかりやすかったです。スコーピングレビューは、論文で目にしていましたが、論文から受ける「確かさ」は、今回のご講演にありましたような手順に基づくものであったことを理解いたしました。
- ・スコーピングレビューの詳細がわかった。
- ・スコーピングレビューのプロセスについて詳細をご説明いただき、理解が深まりました。山路先生の論文作成時のお話がもう少し伺えればと思いました。
- ・講演内容も資料もわかりやすかったです。スコーピングレビューをしようと思っているので、もう一度、改めて講演内容を確認したいです。
- ・説明が具体的でわかりやすかったです。
- ・とてもわかりやすく、具体的な内容を知ることができてよかったです。
- ・レビューの違いがわかりやすく理解できました。近年スコーピングレビューが増えてきていると実感していたので、スコーピングレビューの手順についても理解できました。大変勉強になりました。
- ・大変丁寧に解説いただいた。レビューの位置づけが随分変わって重要になっていることを実感した。
- ・実践現場にいるので看護研究の新しい世界を覗いた感じです。
- ・非常にわかりやすかった。
- ・レビューの基本が理解できました。
- ・大変勉強になり有り難い内容でした。個人的にはレビューの方法・種類の理解が煩雑になってきていて、その違いも分かっているようで分かっていないような感覚でしたが、少し整理できたと思いました（完全に理解が追い付いているとは言えませんが）。一方で、スコーピングレビューを実施する際の登録について触れられていましたが、登録したほうがよいことは分かるのですが、人相手の調査という倫理審査のように必須事項なのか、まだそこまでではないのかの線引きが難しく、やや及び腰になってしまい、ハードルが上がってしまったかもしれないとも感じています。また、英語（カタカナ）表現される用語と日本語表現の用語の使い分けにも苦勞しているため、用語の整理もしていただければさらによかったと思いました。不勉強なところもあり改めて学習したいと思いました。
- ・基本から丁寧にご説明いただいたことで、大変理解が深まりました。
- ・わかりやすいご説明でした。
- ・全体的に分かり易かった。実践できるように具体的にご教示していただけるとさらによいと感じ

ました。ナラティブレビューとの違いを各工程ごとに比較してもらえるとありがたいです。

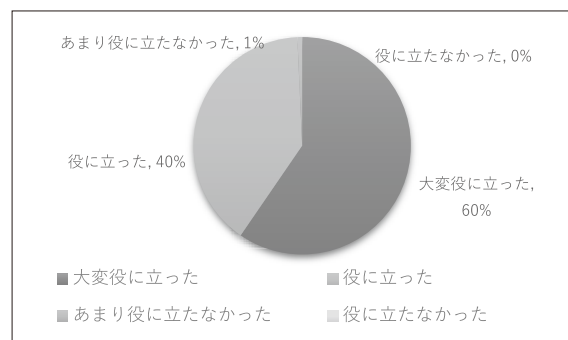
- ・ PCC の枠組みや、プロトコルの作成に関して他の研究領域の先生が説明されている文献が散見されますが、そこを越えて論文執筆の際のポイントまで解説していただいた点が非常に参考になりました。
- ・ テーマに関心がありましたが、やや難しく感じました。取り組むにはハードルが高く感じてしまいました。
- ・ わかりやすく説明していただき勉強になりました。資料も見やすくて良かったです。
- ・ 具体的でわかりやすかった。
- ・ 詳しくてわかりやすい講演でした。
- ・ スライドもご説明もわかりやすかったです。
- ・ スコーピングレビューの目的や意義、方法論まで具体的にご講義いただき理解が進みました。
- ・ レビューについて興味はありましたので、参考になりました。
- ・ 教員が行うスコーピングレビューに現在、文献検索面でサポートしており、レビューをどのように行うかなど、方法論の理解に対して大変参考になりました。
- ・ このレビューについて知らなかったので、勉強させていただきました。
- ・ 研究の基礎となる部分であり、自分自身も理解できていないところもあったため、講演での学びを学生指導に活かしていきたい。
- ・ 具体的な方法が説明されていたので良かった。
- ・ 知らないことがたくさんあり、大変勉強になりました。
- ・ 現在、スコーピングレビューの手法で研究に取り組んでいるため、とても勉強になりました。学会抄録集まで検索をしていたのですが、これが必要であったのかと振り返っています。
- ・ 今後、取り組んでみようと思うような分かりやすいご講演でした。
- ・ 自分自身の勉強にもなったが、学生を指導する上で重要なことを学ぶことができました。
- ・ 具体的でわかりやすかったです。
- ・ 大変わかりやすかったです。
- ・ 初めてこのレビューについて講義を受けたのでわからないところから、おおよそのイメージはついたのかなと思います。丁寧に説明してくださったと思うのですが、横文字の説明が多く、それを頭の中で自分がわかるように変換しながら講義を受けて理解につなげることがやや難しかったです。具体的な説明がもう少しみ砕いてしていただけるとより分かりやすかったと思います。
- ・ 具体例をおし頂き大変分かりやすかったです。各レビューの違いについても理解することが出来ました。
- ・ 具体的にスコーピングレビューとは何か？どのように進めるのかをご説明いただき、理解が深まりました。今後の参考になりました。
- ・ システマティックレビューとの違いや手順などが具体的に理解できました。
- ・ 参考になる HP や論文をご紹介いただき、これからの研究活動に大変役立てそうだと感じました。
- ・ スコーピングレビューについての理解を深めることができました。
- ・ スコーピングレビューに関して、無知だったのですが、今回の受講を通して、レビューの位置づけや今後の文献を読み進める際に、リサーチクエスションによっては・利用してみたいと感じました。とても有益な授業でした。
- ・ わかりやすかった。やってみたいと思った。
- ・ わかりやすかったです。
- ・ スコーピングレビューについての知識が漠然としていましたが、講演前より理解を深めることができました。
- ・ 言葉自体知らなかったなので、レビュー全体についても学ぶ機会となり、ありがたいことだった。
- ・ 丁寧なご説明力でよかったです。

- ・具体例があるともっと理解しやすかったと思った。
- ・具体的な事例を交えながら計画段階から投稿段階まで細かくご教示いただき、大変参考になりました。
- ・丁寧にご説明頂き、よく分かりました。
- ・レビューの歴史やスコーピングレビューについてわかりやすく説明していただき、感謝です。
- ・レビューについて詳細に勉強することがなかったので、丁寧に一つ一つご教示いただき、とても勉強になりました。自身の研究テーマだと、どのようにスコーピングレビューができるかなと関心を持ちました。
- ・スコーピングレビューについて、詳細にご講義頂き、系統的レビューとの違いがよく分かりました。自身でもやってみようと思いました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	84 人	60%
役に立った	56 人	40%
あまり役に立たなかった	1 人	1%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	141 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・また、このような企画をお願いしたいです。後日のオンデマンド配信はとても助かります。復習できます。
- ・昨年より、研究関係のFDに活用させてもらっております。タイムリーなテーマでありがたいです。
- ・自身の研究活動だけでなく、研究指導にも役立つ内容でした。
- ・レビューの歴史や最新の方法論について、改めて学び有意義でした。
- ・日々進化していく研究について、学ぶ機会は有難く思います。
- ・今回のような研究手法に関するセミナーは、年度初めの方がいいと思います。
- ・研究助成の報告も、とても有意義な時間となりました。背景から研究を進める中での考え方、その結果までを分かりやすくご紹介いただきとても参考になりました。
- ・大学院教育に役立てられると思います。
- ・若手研究者のスライド資料も、抜粋でもよいので入手できるようにして頂きたい。
- ・研究セミナーが増えると励みになるので、継続して頂きたい。
- ・Zoom ウェビナーのセミナー形態は、参加する際の検討事項が時間調整のみなので、参加しやすいと思います。
- ・書籍等には書かれていない部分も丁寧にご説明頂きありがとうございました。次年度にレビューを計画しておりましたので、タイムリーなテーマで助かりました。
- ・有用な企画だと思いました。「スコーピングレビュー」という言葉を見聞きすることが多くなっていますので、自分でも調べて学習をしておりましたが、理解を深めることができて良かったです。自身の研究テーマについてのスコーピングレビューをやってみようと思える企画でした。

- ・学会に行くと、自分の専門領域の発表を聞くことに偏りがちなので、他領域の若手研究者の発表を聞くことができ刺激を受けました。
- ・他分野の世界を感じることができました。
- ・若手研究者の報告とセミナーを同時日時に開催すると時間が長いと感じました。
- ・スコーピングレビューのプロトコールについて理解が深まった。
- ・大変勉強になりました。
- ・とても分かり易かったです。
- ・新しい見地が広まるような企画だったと思います。
- ・役立つものが多いのですが、活用するために、資料が欲しいと思うのですが、どうすれば資料がいただけますか。
- ・講義資料をダウンロードできるようにしていただけると助かります。
- ・大変勉強になりました。
- ・教員および大学院生にとって活用可能な企画をしていただきましたことに感謝いたします。
- ・今後も最新の看護研究方法に関して、研修で知り活用できるようになりたいと思いました。
- ・何度もお聞きしたいです。
- ・今回のような、大学教員として必要な研究能力につながるような研修を多く取り入れてほしいです。
- ・このような企画は大賛成である。今後お願いしたい。
- ・企画がどれくらい、どのような面で活用されているのか、発展してきているのか等を短期の評価と長期の効果評価で検討されたことはあるでしょうか？例えば今回の・貴重な企画は今後にどのような意見収集などして評価されますか。今のアンケートは研修直後の印象的理解度を知るには良いですが、それが実際にどの程度活用されているか・・・を知りたいです。
- ・また、こうした研究について開催してほしい。
- ・オンデマンドでのセミナー開催であり、視聴できる機会を作っていただきありがとうございました。
- ・大変有用なご講演を動画で配信してくださりありがとうございます。文字でも勉強したいので、資料があればなおありがたかったです。

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・共分散構造分析について
- ・研究倫理審査について、学生対象の難しさを感じているので、定期的にテーマとしていただきたい。
- ・混合研究について
- ・系統的レビュー
- ・多職種連携の実践
- ・量的な研究方法
- ・量的研究について
- ・看護研究、統計学的な手法など
- ・英語論文の書き方、投稿について
- ・今回のスコーピングレビューのような、研究活動をすすめるにあたり参考になるような研修
- ・看護師が行う実験研究について
- ・助成金の取り方など、研究を継続するためのモチベーションがアップするようなテーマ
- ・研究方法と分析に関するセミナー
- ・RCT 等の比較試験と実証研究の違いを詳しく知りたいです。
- ・大学教員の働き方や研究時間の確保に関する企画
- ・概念分析について

- ・授業設計やカリキュラム作成など大学における教授活動に関するもの
- ・ICT や AI が看護にどのような影響をもたらすのか
- ・メタ統合（メタスタディ、メタ分析、メタシンセシスとの関係含め）
- ・質的研究の分析方法について
- ・研究手法について
- ・メンター制度
- ・業務と研究の両立の仕方、研究時間の確保について
- ・看護研究における人的資源（図書館司書・統計家 etc）の活用法について
- ・学生への看護研究指導について
- ・質的および量的研究方法について
- ・スコーピングレビュー
- ・研究関係や大学教員の働き方改革に関するもの
- ・研究方法論ごとの査読ポイント
- ・査読の仕方

②開催時期

- ・1月（1件）
- ・2月（7件）
- ・3月（4件）
- ・5月（2件）
- ・6月（1件）
- ・8月（3件）
- ・9月（1件）
- ・できるだけ早い時期（1件）
- ・夏季期間（1件）
- ・夕方か土日（1件）
- ・土日祝日（1件）
- ・オンデマンド配信があるならいつでも（6件）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（112件）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（19件）
- ・会場開催（1件）

④開催場所

- ・京都（1件）
- ・大阪（2件）
- ・東京（5件）
- ・新幹線のみで行ける場所（1件）

3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

櫻井 しのぶ（順天堂大学）

○田村 由美（日本赤十字広島看護大学）
（委員）

中村 敦子（日本赤十字広島看護大学）

若林 律子（順天堂大学）

3. 2023 年度事業活動報告

(1) 研修会の開催

テーマ：包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護学教育の連携—

目的：「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に準拠した包括的性教育の国内外の現状、支援の事例等を学び、看護学教育における包括的性教育の在り方を検討し推進していくための示唆を得る。

内容：2022 年度に続き LGBTQ+に関する内容とし、看護学と研究の視点を含めた講演と座談会

開催日時：11 月 11 日（土）13：00～14：50

開催方法：Zoom ウェビナーを用いたライブ配信、オンデマンド配信

講師：菊池 準子 氏（食愛♡ Kitchen ～くうらぶ♡きっちん～ 主宰）（一般社団法人“人間と性”教育研究協議会 四国ブロック幹事）

野口 亜弥 氏（成城大学文芸学部 専任講師）（スポーツとジェンダー平等国際研究センター 副センター長）（一般社団法人 S. C. P. Japan 代表）

中村 敦子 氏（日本赤十字広島看護大学 看護学部 准教授）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～13：40 基調講演 『子どもも大人も共に学び考え合う「包括的性教育」～キーワードは「つながる」～』

講師：菊池 準子 氏

13：40～14：00 事例紹介 1 『学校スポーツ現場における LGBTQ』

講師：野口 亜弥 氏

14：00～14：15 事例紹介 2 『多様な性に対する理解 看護大学 母性看護学・助産学領域の立場から』

講師：中村 敦子 氏

14：15～14：20 休憩

14:20～14:45 座談会

14:45～14:50 閉会挨拶

当日参加者：60 名

動画配信期間：2023 年 11 月 14 日～2024 年 2 月 14 日

動画視聴回数：232 回

講演概要：

1) 基調講演

講師：菊池 準子 氏

講演では、「包括的性教育」とは何か、また、なぜ「包括的性教育」が求められているのかについて説明された。また、ユネスコから発表されている「国際セクシャリティ教育ガイダンス」が紹介され、「包括的セクシャリティ教育」は国際水準であることが説明された。性器は究極のプライバシーである一方で、生涯にわたりすべての人々に関わることであり、すべての人にとって学びが必要であり、特に医療現場では学びが重要であることが強調された。性＝生であり、人々が幸せに生きていくために、人権を尊重し、性を学ぶことが「包括的セクシャリティ教育」であり、人権を基盤とし、人間関係、多様性、いのちを含む人としての土台を育み総合的に人を育てる教育であることが説明された。菊池氏が取り組んだ事例として誰にでも理解ができるよう絵で説明する絵本が紹介された。



さらに、国内外における性や男女平等に関する動向やそれらに伴う性教育の変遷について説明がされた。性を学ぶ上で大切なキーワード「幸せに生きる権利」、「からだの権利」、「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」、「性的自己決定権」を基に、どのように性教育を進めていくのか説明された。

続いて、宇和島市の中学校において菊池氏が取り組んでいる「包括的セクシャリティ教育」の連携について紹介された。本取り組みでは、外部講師による講話だけでなく、学級担任にも関わってもらう取り組みを行ない、2023年1月にはNHKや新聞で紹介されていることが示された。看護系大学に求めることとしては、「まずは教員が学び」、「つながる」ことが重要であり、「包括的性教育を広めていくために力を発揮するリーダーの育成、カリキュラム作成・研修の充実」であることが示された。

2) 事例紹介1：学校スポーツ現場における LGBTQ

講師：野口 亜弥 氏

スポーツにおいて、なぜ LGBTQ+ が重要であるか、またその取り組みについて事例をあげ講義いただいた。スポーツの歴史を遡るとジェンダーやセクシャリティと深く関わりがあることが説明された。スポーツの中では、80%の人は、LGBTQ+ は受け入れら



れていないと回答していることや LGBTQ+ の当事者 90% は、スポーツの中で同性愛嫌悪やトランス嫌悪に直面しており、「差別・偏見・嫌悪との闘い」や「制度・仕組みとの闘い」があることが示された。

LGBTQ+ の人々に対し、スポーツ現場でどのように安心、安全を保障できるかが課題となっており、それらに対し、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」の 3 つのスポーツを推進していることが説明された。「するスポーツ」の具体例としては、男女の更衣室にプライベートスペースを設けることや、「LGBTQ+ フレンドリー」を表示する、「ユニフォームを男女一緒にする」などの例が紹介された。「みるスポーツ」では、「プライドハウス」、東京オリンピックでのガイドラインが紹介された。「支えるスポーツ」では、支える側の職員、ボランティアなどに対する研修会を実施すること、呼称を「さん」で統一すること、性別でルールを変えないなどの例が紹介された。また、嫌なことが起きた時に、安心・安全に報告できる仕組みをつくっていくことの必要性が強調された。

3) 事例紹介 2：多様な性に対する理解 看護大学 母性看護学・助産学領域の立場から

講師：中村 敦子 氏

「看護学部におけるセクシャリティに関する教育」、「セクシャリティについて学生への質問した結果」、「包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護教育の連携—」の 3 点の事例を示し講義をいただいた。



看護学部におけるセクシャリティに関する教育では、中村氏の大学では、2 年次における「母性看護学概論」の科目において、セクシャリティ、身体上の性と心理・社会上の性、ジェンダーを取り上げており、助産学の授業では、アイデンティティについて取り上げているがいずれも 90 分の中で 10 分程度と少ない課題が挙げられた。続いて、「セクシャリティについて学生への質問した結果」について示され、「意識したことがない」学生や「考えたことがない」学生がいる一方で、「違和感なく受けとめられている」学生がいることが示された。また、看護大学で学修する上では、性差を感じることがあることが示された。ユニフォームはユニセックスなデザインのユニフォームを着たいなどの希望があることが示された。

最後に、「包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護教育の連携—」について大学と小中高での連携の具体例が示された。小学校における生命教育「いのちのたんじょう」、中学校における「すてきな大人になるために講座～性に関する学び～」、高校・大学での「すこやかな学校生活を送るために」など実際に行われている授業内容が紹介された。

座談会

司会：中村 敦子 氏

講師：菊池 準子 氏、野口 亜弥 氏

性の多様性について意見交換がされた。菊池氏より様々な人がいるように、性器の形もいろ

いろあり、性のあり方もいろいろあることを小さなころから多くの人に知っていただくことが大切であると述べられた。野口氏からは、スポーツは多世代の人が集まる場でもあるので性に関する情報を届け、多様性を伝えることができる良い機会であることが述べられた。

Q：大人の認識を変えていくことが前提となるのでは。

A：学校の参観日で授業を公開していくことや高齢な方が中学の学びをみる機会を作っていくことが重要であること、組織文化や行政を変えていくことが重要であり、地域で包括していくことが必要であることが述べられた。また、相談できる、認めてもらえる場所であるセーフティスペースを広めることが重要であると述べられた。

Q：看護カリキュラム中に性教育をどのように取り入れていくか。

A：カルテの性別の記載や男女別の病室などに対して実習に行ったときなど、教員が学生に問いかけてみるのはどうかと提案された。毎日の生活の中に性教育できる場面はあり、アンテナをもっていることが重要であると述べられた。

Q：看護学教育に求めること。

A：看護教員だけではなく、専門家など外部の人の力を借りながら連携をしていくことが提案された。また、学生に疑問をもって投げかけていくことや、ヒューマンケア、人権を大切にしながら学生を育てていくことが重要であると述べられた。

Q：どのように対応したらよいのか気を付けるようなチェック方法があるのか。

A：包括的性教育を行っていきながら、教育する側も学んでいくことが重要であることや自分では気づけないところがあるということを自覚していく、自分の視点は欠けるところがあるということを思っていることが大切であると述べられた。

おわりに

性教育、性の問題を看護教育につなげていくために、性教育、看護においても人権、人として生きていくことに根源があり、看護教育の中で、包括的に考えていくことが大切である。

看護教育の中では、領域に限らず、広く包括的に教育をしていくことが必要であり、ひとりひとりが大切な人間である、豊かな心を育んでいくことにより性教育が繋がっていくと考える。

(2) 委員会の開催

第1回国際交流委員会

日時：2023年10月3日（月）13：00～14：30

開催方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：（理事）櫻井 しのぶ、田村 由美、（委員）中村 敦子

議題：

1. 研修会について（11月11日開催）

- 1) 事務局より進捗の報告
- 2) 中村先生より講師との事前打ち合わせ（9月29日）の報告
- 3) 研修会の当日業務の担当
- 4) アンケート設問について

2. 2024 年度国際交流委員会事業活動について

1) 事業活動の拡充について

3. 今後のスケジュール

第 2 回国際交流委員会

日時：2024 年 2 月 14 日（水）16：30～17：40

開催方法：Zoom によるオンライン会議

出席者：（理事）櫻井 しのぶ、田村 由美、（委員）中村 敦子、若林 律子

議題：

1. 研修会の振り返り
2. 2024 年度事業活動計画案について
3. 2023 年度事業活動報告について
4. 今後の理事会・社員総会スケジュール

4. 今後の課題

昨年度に引き続き、研修会は多くの会員校からの参加者を得ることができ、繰り返し視聴できる利点も確認できた。研修テーマとして寄せられている声は、国際看護学の取り組み、海外研修の内容、地域生活者の視点を理解する教育など多岐にわたっている。話題提供は、地域やテーマ等が偏ることなくできるだけ多くの会員校から行っていただきたいと企画している。国際交流の現状、課題、障壁、工夫、改革などを忌憚なく検討しながら交流できる場でありたい。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 国際交流委員会
「包括的性教育の推進—小中高における学校保健と看護学教育の連携—」アンケート結果
当日参加者：60名、動画視聴回数：231回
アンケート回答者：34名

Zoomを用いたライブ配信
開催日：2023年11月11日（土）
動画配信期間：11月14日～2024年2月14日

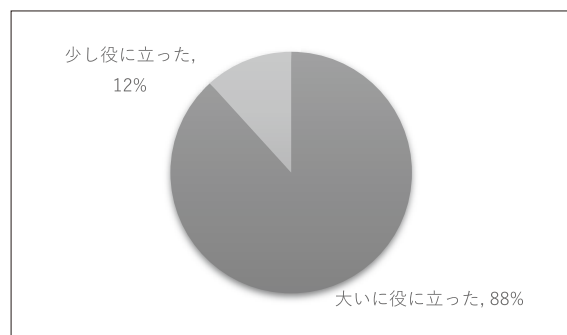
1. 講演について

①子どもも大人も共に学び考え合う「包括的性教育」～キーワードは「つながる」～

講師：菊池 準子 氏（食愛♡Kitchen～くうらぶ♡きっちん～ 主宰）（一般社団法人“人間と性”
教育研究協議会 四国ブロック 幹事）

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	30人	88%
少し役に立った	4人	12%
あまり役に立たなかった	0人	0%
まったく役に立たなかった	0人	0%
合計	34人	100%



2) ご意見、感想など

- ・これまでの性教育の歴史、現状までの流れが非常にわかりやすく、そして、つながるための策が具体的でわかりやすかった。
- ・実際に学校で行っている講演について詳しくお聞きしたかったです。
- ・大学の非常勤講師として、学校保健に携わっております。菊池先生と同じ愛媛県で女性支援を行っています。性の問題は人権問題であるということをもっともっと学校教育、社会へ伝えていかなければいけないと改めて感じました。大変有意義な研修でした。
- ・早い段階からの性教育は私も実現することが必要だと思いました。
- ・人権を考える機会になりました。
- ・性教育を実施する上で学校の先生や保護者に性教育の重要性を説明する機会があります。できましたら、先生のご講義のパワーポイントは学校の先生や保護者への理解を深める内容だと思いましたので、是非パワーポイントをアップしていただけますとありがたいです。
- ・性教育の歴史から現状と課題について分かりやすくご説明いただき感謝です。
- ・日本における詳細な学校教育における性教育の歴史・現状が理解できました。
- ・包括的性教育の実践のために、学校での外部講師による性教育の実施は有効であると思いますが、先生のおっしゃられていましたように、日々生徒たちと身近に関わっている学校の先生方による性教育とセットに実施していくことが重要であると改めて感じました。より教育と医療、保健福祉が連携できるような方策を考えていきたいと思います。
- ・自分が育てられた様に育てようとしてしまいがちであるが、それだけではいけないことを教えられました。
- ・性の学びで大切なことのキーワードとして1番目に「性を人権として学ぶ」が示され、とても感

動しています。

- ・宇和島市の取り組み、学校・地域との連携があって実施できると思いました。全国的に広がると良いとも思いました。
- ・先生のお話を聴き、年代に合わせた授業内容などを理解できました。性教育の重要性を改めて学ばせていただきました事、感謝致します。
- ・義務教育終了までに大切なポイントを子どもたちに学ばせることの重要性を指摘され、本当に同感でした。優しいお人柄が伝わってきて、子どもたちに安全な場所を提供することの必要性を痛感いたしました。
- ・包括的性教育という概念がわかりました。

②学校スポーツ現場における LGBTQ

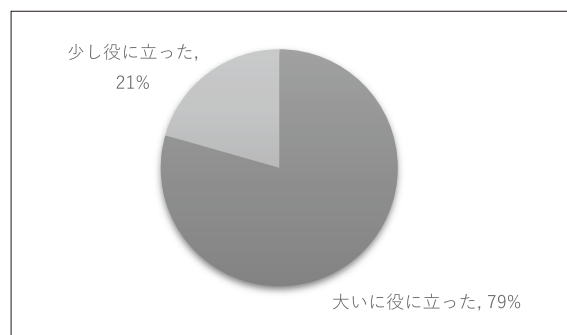
講師：野口 亜弥 氏（成城大学 文芸学部 専任講師）

（スポーツとジェンダー平等国際研究センター 副センター長）

（一般社団法人 S. C. P. Japan 代表）

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	27 人	79%
少し役に立った	7 人	21%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	34 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・分かりやすかったです。
- ・スポーツの歴史的背景からのジェンダーのお話は興味深く聞けました。
- ・スポーツの観点からの講演でしたが、もう少し時間を長く設定していただきたかった。興味が持てた内容だった。
- ・スポーツジムでの対応に関する内容は大学での学生への対応に通ずるものだと感じた。参考にしたい。
- ・「自分は恋愛する側なので恋愛しない側の気持ちは欠けている」という言葉にハッとしました。私も「欠けている」に意識して言葉を発信していきたいと思いました。
- ・スポーツ界での LGBTQ+ について大変考えさせられました。スポーツ界の話ではありましたが、社会全体でこのような問題や課題があるのだという事が分かりやすかったです。小学校からすでに男女分けでいろいろな取り決めなどがあるため、社会の認識を変えていくための小さな一歩が大事だと感じました。
- ・客観的な研究データに基づくご講演、さらに現場の状況もよく理解できました。
- ・スポーツの観点からお話いただき、自分に足りなかった視点についても考える機会となりました。
- ・スポーツ界を通じたジェンダーの現実から学べることをもっと世に出して頂きたい。
- ・野口先生の「スポーツは LGBTQ+ の最後の砦（セーフスペース）」という発想、取組は、LGBTQ+ に対する排除言説へのカウンターとして大変有効であり、包括的性教育とリンクすることで、さらに強力な説得力を持つと感じました。看護の先生達と連帯してこれからも活動を拡げて欲しいと思いました。

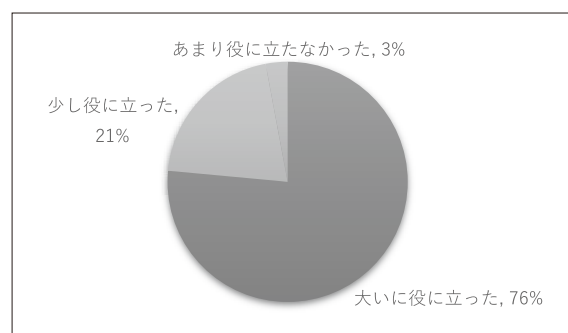
- ・スポーツの観点から分かりやすくご説明いただいた。
- ・学校スポーツ現場でのお話は、大変勉強になりました。また、先生のコメントは、一つひとつ心に響くものでした。
- ・その人がどのように呼ばれたのか、スポーツに参加する際の配慮等、いろいろ気付くことができました。学校に勤務していた頃に、保健室登校の生徒がおり、水泳の授業参加のため、本人と体育科の教員とをつなぎ、いろいろ話し合ったことを思い出しました。
- ・スポーツの世界のジェンダーの現状、問題がわかりました。

③多様な性に対する理解 看護大学 母性看護学・助産学領域の立場から

講師：中村 敦子 氏（日本赤十字広島看護大学 看護学部 准教授）

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	26 人	76%
少し役に立った	7 人	21%
あまり役に立たなかった	1 人	3%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	34 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・助産師教育を行いながら、社会貢献として小学校中学校での講義をされていることがすごいと思います。
- ・実際の授業風景を見ることができ、参考になりました。
- ・自身の教育内容や方法を見直す機会になった。
- ・大変興味深く伺っておりました。母性助産教員全員での性教育出前講座や、寸劇など素晴らしい取り組みだと思い伺っておりました。始まったきっかけは何だったのでしょうか。大学祭での寸劇をサークルの学生集めてできたらいいなと考えました。大変貴重なアイデアを頂きありがとうございました。
- ・セクシュアリティについての学生の意見を興味深く聞かせていただきました。看護大学教員、助産師として充実した性教育、生命教育が提供できるよう考えていきたいと思っています。
- ・母性分野のお話は、説得力があり、特に誕生時に、まず性を伝えることの問題意識がとても印象に残った。
- ・助産師教育においても、性の多様性に関する教育が始まっていて、学生の柔軟さに教員の方が目を開かれる経験についてのお話や、クエスチョニングな新生児の出産に立ちあった経験などを聞くことができとても嬉しく思いました。ただ、資料の中で「性同一性障害」という言葉があり、これは現在、ICD-11 で性別不合、DSM-5 で性別違和と改訂されていることについても触れて頂きたかった。過去の統計の引用でしかたがなかったのかもしれませんが、触れて頂きたかったです。
- ・小学校や中学校での出前授業など、大変素晴らしい取り組みだと思いました。
- ・看護教育現場におけるご講演、うなづきながら聴くことができました。
- ・学年に応じた性教育の取り組みをご紹介いただきました。
- ・本学では教養科目の中で、講師裁量でこのような内容を扱える授業がありました。私も学校教育・学校保健の立場から本日のテーマのような内容を実施したことがありますが、単年度のため継続

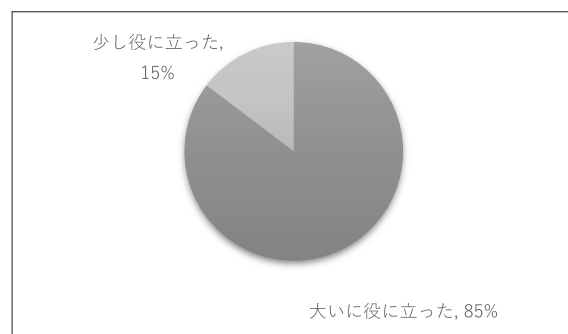
性はありません。授業後の学生の感想には、本日ご紹介いただいたような同じ内容があり、このテーマは男性や女性に限定したものではなく、広く人権教育につながることから継続的な実施が必要だと感じております。機会を見て、働きかけたいと思います。

- ・素晴らしい取り組みをされていると思いました。

2. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大いに役に立った	29 人	85%
少し役に立った	5 人	15%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	34 人	100%



2) ご意見、感想など

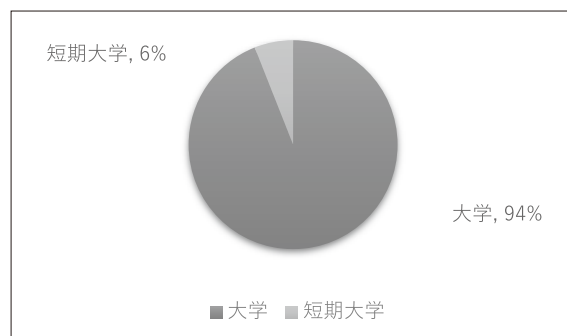
- ・母性看護学や助産学教育のみでなく、看護学教育に携わる全領域、可能であれば全学をあげて取り組む必要があると思いました。
- ・講義の中でもあったのですが、今後の包括的性教育を担う人材育成という視点で、看護学生へのこの分野の教育は大切と考えます。
- ・大変多くの学びがありました。
- ・これから実習で小中学生を対象に性教育を実施するので、今回の研修会の内容を参考に企画していきたいと思いました。
- ・日々、学生たちに向き合うものとして、自身の性に対する価値観を伝えていきたいと思った。
- ・大学の社会貢献、地域連携活動として包括的性教育を実施していく役割、使命を感じている。できるところから始めることが大切だと感じた。
- ・どの内容も大変貴重で素晴らしい内容でした。学部全体で意識を高めていくべきことだろうと感じました。できることから少しずつですが、ご教示いただきましたように、まずは教員が意識を高め学生に考える機会を提供することから始めてみたいと思いました。
- ・看護基礎教育の中ですでに展開しています。セクシャリティを意識しないで母性看護学の意味はないと思っております。すでに現場で起こりうる疑問なども、DVD も販売されていたりするので活用しています。また、学生の方が LGBTs には寛大な意識を持っているので、少しの刺激で大きく教育なみの効果はあると感じています。自分も、義務教育現場や看護以外の大学生に性教育の実践をしながら、模索し、自ら顧みつつ社会に役立っていきたいと考えています。今後このようなセクシャリティや人権に関する内容を取り上げてください。
- ・セクシャリティの重要性につき改めて学ぶことが出来ました。菊地先生のご講演中にありました「性」=生きることであり、また生理的欲求でもあるため、性の尊重は人が人らしく／自分らしく生きるための根幹ではと思いました。老年看護実習で当たり前のように家族を築いてきた方は男性／女性として疑う余地なくおりましたが、時代柄それらを隠し「普通」となるよう苦しみながら生きてきた方も実は多くいるのではと考えることが出来ました。多様性の中に、もしかしたらそんな患者さまが見えるのではというアンテナを張れる看護師になれるよう教育していきたいです。
- ・どの先生の講義も大変興味深い内容で、勉強になりました。

- ・附属学校がある大学は、小中高と連携をしやすいが、公立学校は、教育委員会の方針から見直さないと難しいのではないかと。
- ・「包括的性教育の主流化」というムーブメントが起きることを期待させる素晴らしい研修会でした。
- ・看護教員でありながら、包括的性教育についての知識があまりなく、FDなどでも学び、一教員として何ができるか、学生にどう接するべきかを考えていきたい内容だと思いました。
- ・性は自分で決めることになった場合、先日のニュースに公衆浴場に外見は男性で内面は女性だと言われる方が入場を求めてきたそうです。この場合、社会はどう受け止めればいいのか。最高裁では、外見的性器を再形成しなくても性転換は可能であると結審されています。
- ・とても著名な先生方が、自身もまだまだ発展途上であるといったことや、過去の反省点等を述べておられることから、包括的性教育を推進していくには、まずは、自分はどうなのかを振り返ることが最も重要なのだと痛感しました。拝見していてとても気持ちの良い研修会でした。最近ではこのような研修会は珍しいように思いました。
- ・最近の報道からジャニーズの性被害・加害問題や、公務員である警察官や教員の児童生徒への盗撮問題等といった性に関する被害や加害が大変気になります。当事者が声を上げるのが厳しいなら、その周辺にいた人たちがもっと敏感になっていれば、早期発見につなげることは可能であると考えますので、社会での生きやすさや人権問題として、持続可能な社会を形成していく上で、今後も何らかの形で取り組んでいくことは重要であると考えます。看護学教育では当たり前のことが、社会ではまだまだという感じがしております。看護学教育に携わる者として、入学してきた学生に対して全領域からの関わりが必要だと考えます。
- ・現代にとっても必要な、素晴らしいテーマと内容でした。とても学びになりました。看護教育への活用は重要ですが、実際にはどう取り入れるべきか…時間も方法も問題です。

3. 参加者について

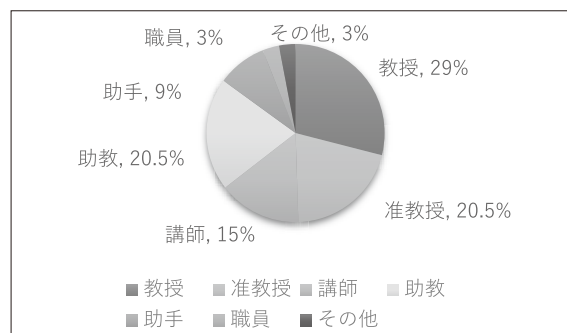
①所属

	人数	割合
大学	32 人	94%
短期大学	2 人	6%
合計	34 人	100%



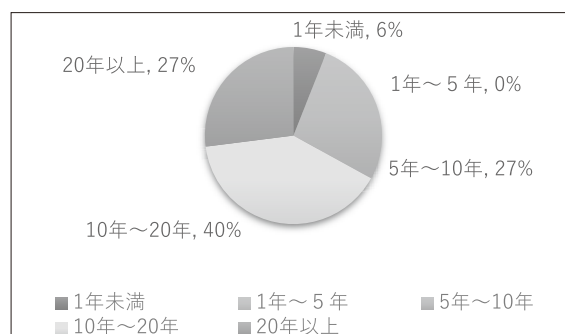
②職位

	人数	割合
教授	10 人	29%
准教授	7 人	20.5%
講師	5 人	15%
助教	7 人	20.5%
助手	3 人	9%
職員	1 人	3%
その他	1 人	3%
合計	34 人	100%



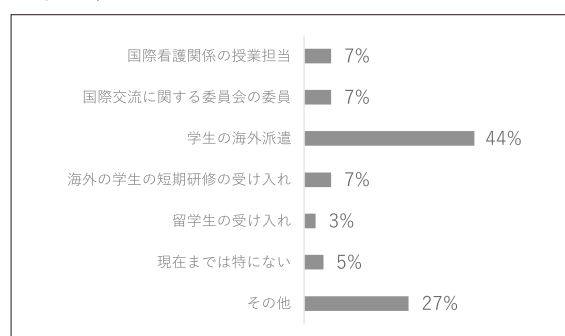
③在職期間

	人数	割合
1年未満	2人	6%
1年～5年	0人	0%
5年～10年	8人	27%
10年～20年	12人	40%
20年以上	8人	27%
合計	30人	100%



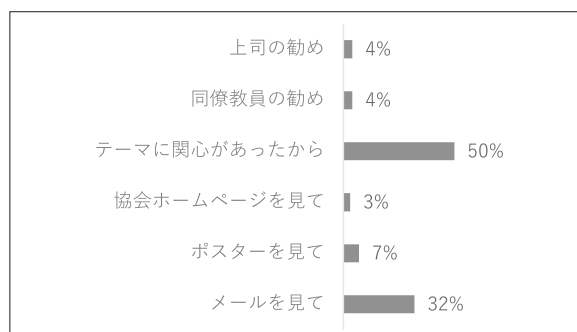
④国際看護や国際交流に関しての職務について（複数回答可）

	人数	割合
国際看護関係の授業担当	3人	7%
国際交流に関する委員会の委員	3人	7%
学生の海外派遣	18人	44%
海外の学生の短期研修の受け入れ	3人	7%
留学生の受け入れ	1人	3%
現在までは特にない	2人	5%
その他	11人	27%
合計	41人	100%



⑤参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	1人	4%
同僚教員の勧め	1人	4%
テーマに関心があったから	14人	50%
協会ホームページを見て	1人	3%
ポスターを見て	2人	7%
メールを見て	9人	32%
合計	28人	100%



4. 今後、本協会「国際交流委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・在日外国人への対応
- ・患者のセクシャリティや人権に関すること
- ・多(他)文化をもつ入院患者への配慮について
- ・外国人医療従事者に関する動向
- ・次世代を担う若者が生き抜くために大人たちができること
- ・LGBTQ+、ジェンダー、人権、包括的性教育
- ・国際交流事業では、紛争や政治やNPや各国の看護や国連で働いている方など看護が果たすべき役割や活動されている方々など、幅広くテーマを募ってもらえると思います。

- ・ 包括的性教育は続けて欲しい。

②開催方法

- ・ オンライン（5 件）
- ・ 対面とオンデマンド
- ・ Web は、直接質問できないため、極力対面をお願いしたい。参加できない方へのオンラインやオンデマンドは賛成します。

③開催時期

- ・ 春～夏
- ・ 6 月、10 月、11 月
- ・ 土曜日
- ・ 年に 1 回ではなく、数回開催できるような仕組みを検討するか、国際交流事業の在り方を考えるかされてもいいと思います。

④開催場所

- ・ オンライン（2 件）
- ・ 首都圏から各地域へ、各大学単位でもいいと思います。

4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査

2. 担当理事および委員（○：委員長）

井上 智子（国際医療福祉大学）
棚橋 泰之（神奈川歯科大学短期大学部）
長澤 正志（淑徳大学）
○百瀬 由美子（日本赤十字豊田看護大学）

3. 2023 年度事業活動報告

1) 研修会

- 1. テーマ：私立看護系大学の現状と展望
- 2. 目的：私立看護系大学の現状を知ると共に経営戦略についての新たな知見を得て、私立看護系大学の経営を推進する。
- 3. 開催日時：2023 年 10 月 23 日（月）13：30～17：00
- 4. 開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信
- 5. 講師：南 浩司 氏（日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター私学情報室 室長）
飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

6. プログラム

13：30～13：40 開会
13：40～15：10 講演 1「私立看護系大学の現状とこれからの経営戦略」
講師：南 浩司 氏
15：10～15：20 休憩
15：20～16：50 講演 2「学生募集の現状と今後の展望」
講師：飯島 隆介 氏
16：50～17：00 閉会

当日参加者：（講演 1）124 名、（講演 2）88 名

動画配信期間：2023 年 10 月 31 日～2024 年 1 月 31 日（講演 2 のみ）

動画視聴回数：371 回

講演概要：

南氏の講演内容

- 1. 日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）のご案内

2. 私立大学を取り巻く環境の変化
3. 国の政策支援
4. 私立学校法の改正
5. 我が国の高等教育政策
6. これからの私学経営
7. 私学事業団の経営支援・情報提供事業 融資事業 寄付金事業のご案内

飯島氏の講演内容

1. ブランド力調査から見る看護系大学のイメージについて
2. いまどきの高校生に対する効果的な募集広報について
3. 高校生の進路選択行動影響調査（2023 年 9 月実施）調査概要

- 2) 4 年制大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書の作成及び 5 年間の報告書の作成
（JANPU との合同）

調査依頼：10 月 11 日に調査票（エクセルファイル）を送付

調査期間：10 月 16 日から 12 月 26 日

5 年間の報告書の作成

- 3) 短期大学の教育等に関する実態調査の実施及び 5 年間の報告書の作成

調査依頼：10 月 11 日に調査票（エクセルファイル）を送付

調査期間：10 月 16 日から 11 月 20 日

5 年間の報告書の作成

4) 委員会

第 1 回大学運営・経営委員会

日時：10 月 4 日（火）13：00～14：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：井上智子、棚橋泰之、長澤正志、百瀬由美子（五十音順、敬称略）

議題：

1. 研修会（10 月 23 日開催）について
 - 1) 事務局より進捗の報告
 - 2) 研修会の当日業務の担当
 - 3) アンケート設問について
2. 2024 年度大学運営・経営委員会事業活動について
 - 1) 事業活動の拡充について
3. 今後のスケジュール

第2回大学運営・経営委員会

日時：2024年2月13日（火）13：00～13：45

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上智子、棚橋泰之、長澤正志、百瀬由美子（五十音順、敬称略）

議題：

1. 研修会の振り返り
2. 2024年度事業活動計画案について
3. 2023年度事業活動報告について
4. 今後の理事会・社員総会スケジュール

5)「看護系大学の教育等に関する実態調査」合同会議

第1回合同会議

日時：7月21日（金）10：00～12：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

1. 2023年度看護系大学に関する実態調査内容とスケジュールについて
 - 1) 設問項目の修正について
 - 2) スケジュールについて
2. 5年比較データ集計と図表について
3. データベース化（rawデータの活用）について

第2回合同会議

日時：11月27日（月）14：00～15：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

1. 5年比較データ集計と図表の確認
2. データベース化（rawデータの活用）の検討
 - 1) 他の公的なデータベースサイトとの兼ね合いなどの検討
3. 実態調査（2022年度分データ）の進捗状況と情報共有
 - 1) 主な質疑応答の回答来年度調査で必要な修正の項目の整理、確認
 - 2) Q & Aの追加と2024年調査での改善点
4. その他

第3回合同会議

日時：2024年2月8日（木）13：00～14：30

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

1. 2022年度看護系大学に関する実態調査（2023年度実施）の集計について

- 1) 回収状況
- 2) 分析コメントの担当について
- 3) 集計時の注意点
2. 今後の報告書作成スケジュール
3. 今後の検討事項
- Q & A の確認
4. その他
- 5 年度比較報告書作成のための合同会議の開催について

4. 今後の課題

- 1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用
会員校が実態調査の結果を有効に活用できるように、回答率を更に上げる。
- 2) 研修計画
大学運営・経営強化のために年 1 回研修会を企画している。今後も、教育の質向上、学生の確保および補助金獲得等の大学運営・経営に資する知見が得られる企画を立案していく。

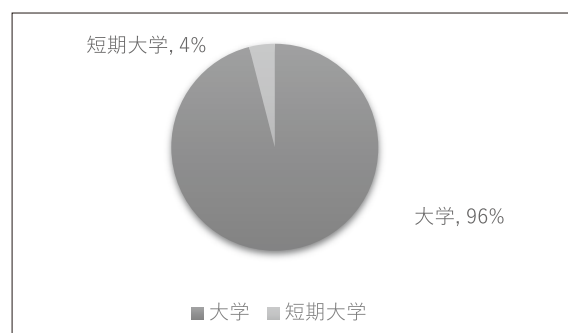
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会
「私立看護系大学の現状と展望」当日参加者アンケート結果
当日参加者 講演1：124名、講演2：88名 動画視聴回数（講演2のみ）：371回
アンケート回答者：53名

Zoom を用いたライブ配信
開催日：2023 年 10 月 23 日（月）
動画配信期間：10 月 31 日～2024 年 1 月 31 日

1. 参加者について

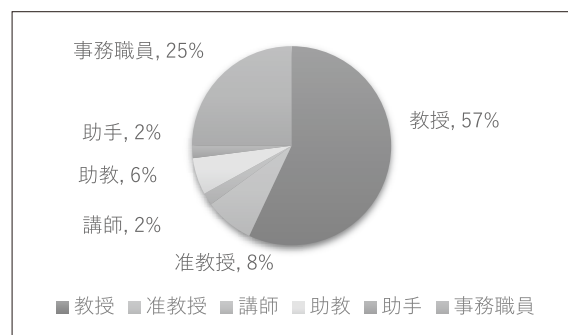
①所属

	人数	割合
大学	49 人	96%
短期大学	2 人	4%
合計	51 人	100%



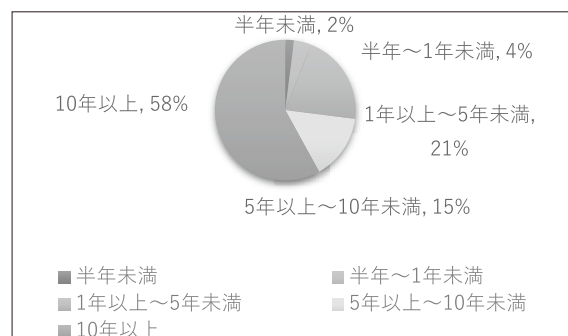
②職位

	人数	割合
教授	30 人	57%
准教授	4 人	8%
講師	1 人	2%
助教	3 人	6%
助手	1 人	2%
事務職員	13 人	25%
合計	52 人	100%



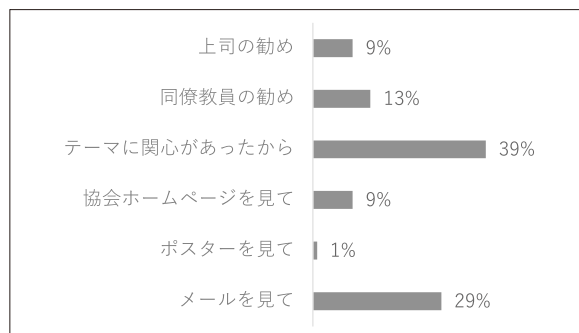
③在職期間

	人数	割合
半年未満	1 人	2%
半年～1 年未満	2 人	4%
1 年以上～5 年未満	11 人	21%
5 年以上～10 年未満	8 人	15%
10 年以上	30 人	58%
合計	52 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	7 人	9%
同僚教員の勧め	10 人	13%
テーマに関心があったから	30 人	39%
協会ホームページを見て	7 人	9%
ポスターを見て	1 人	1%
メールを見て	22 人	29%
合計	77 人	100%



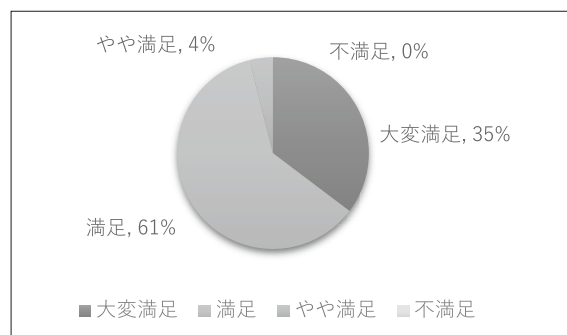
2. 講演について

①「私立看護系大学の現状とこれからの経営戦略」

講師：南 浩司 氏（日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター私学情報室 室長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	18 人	35%
満足	31 人	61%
やや満足	2 人	4%
不満足	0 人	0%
合計	51 人	100%



2) ご意見、感想など

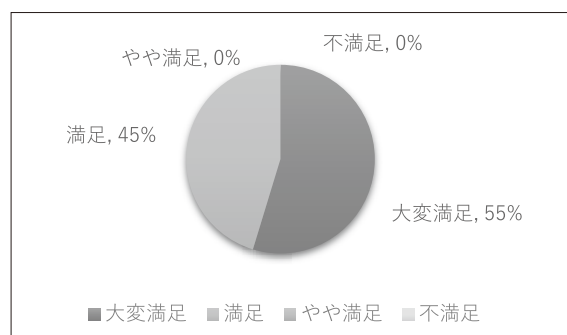
- ・膨大な資料を提供してくださり感謝です。
- ・財務関係の説明がやや難しかった。
- ・私立大学の現状を数字で見ることができ、危機感を持った。
- ・経営戦略の部分では、普段から触れることが少ない為、難しく感じた。
- ・私立大学を取り巻く環境の変化から高等教育の政策、法人としての私学経営と多岐にわたる内容で大変参考になりました。特に、経営に関しては大学の存続にも関わる重要な内容でしたので、自大学の経営状況について再確認してまいりたいと存じます。また、ブランド戦略は自大学の課題でもあり検討はしておりますが、早急に方向性を決定する必要性を感じております。
- ・18歳人口の減少をふまえた学生募集の方法を検討する際に参考にしたい内容が含まれていました。
- ・データを示して下さり、今後の将来計画の指標となった。

②「学生募集の現状と今後の展望」

講師：飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	29 人	55%
満足	24 人	45%
やや満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	53 人	100%



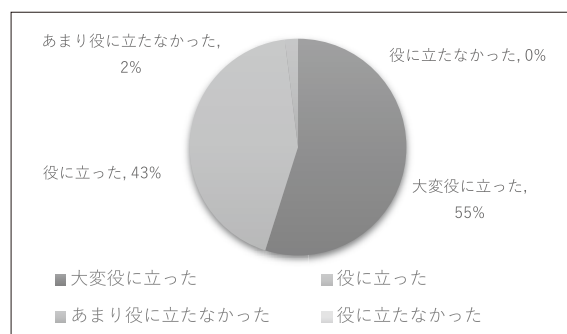
2) ご意見、感想など

- ・ 具体的な数値やデータで、看護系大学の情報を提供してくださり、参考になりました。
- ・ 受験生を獲得する戦略へのヒントをいただいた。多くの刺激を受けました。
- ・ 今回の内容をエリア別に細かく分析した内容のものが知れると大変ありがたいです。
- ・ 18歳人口が減っている現状であるのに、看護系大学の設立が増えている。
- ・ すでに提示があったことに取り組んでいるが、なかなか志願者増に結びつかないので、これからどうしていけばよいのか、益々悩みが深くなった。
- ・ どのような戦略で志願者を増やすか、今の高校生の情報収集の特徴を考えるとイメージすることが難しい。
- ・ 募集が厳しくなっていく中で、自身の働いてる大学のブランディング戦略を意識した仕事が必要なのだと感じた。
- ・ 中長期計画、ブランド力等、直面している課題であり、大変興味深く拝聴させていただきました。
- ・ データを用いての説明でとても分かりやすかったです。
- ・ 動画で視聴しましたがスライドが細かくて見づらかったこと、今後も確認するとき用として、PDFなどでダウンロードできるようにしていただけたら助かります。
- ・ 高校生を対象とする調査に基づいてご講演頂いた内容に、大変時代の変化を実感することができました。看護系の学校の人気下がっている状況の中で、大学が何を目指したらよいか検討する時期に来ていると思います。率直な調査結果を教えて頂き良かったと思います。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	28 人	55%
役に立った	22 人	43%
あまり役に立たなかった	1 人	2%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	51 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・先を見越した企画でとても参考になりました。
- ・大変厳しい現状が目の前まで来ているのだということ、若い世代の流行はあるかもしれませんが、これからの社会と教育理念を見つめることが重要であることについて考えました。また、情報をとりにいかなかった学生の学習についても考えていかなければならないと思いました。
- ・現状にマッチした内容であり、非常に参考になりました。

4. 今後、本協会「大学運営・経営委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・運営方法が良かった事例検討
- ・今回の内容をエリア別に細かく分析した内容のもの
- ・大学統合や複数大学の連携について
- ・学生募集関係は今後もテーマにしていきたい
- ・大学統合に関する情報提供など。例えば、統合までの行程と統合後の課題
- ・現在、看護系大学は300校を超え、さらに増加しております。学生や教員の取り扱いになっているようにも感じます。そのため、文科省・厚労省は、現状をどのように評価し、今後の看護教育についてどのような方向性を持っているのかを聞く機会があればよいと考えております。

②開催時期

- ・8月（1件）
- ・9月（1件）
- ・10月（1件）
- ・いつでも（1件）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（42件）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（6件）
- ・会場開催（1件）

④開催場所

- ・東京（2件）

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

坂本 真理子（愛知医科大学）

○島袋 香子（北里大学）

長澤 正志（淑徳大学）

三国 久美（北海道医療大学）

3. 2023 年度事業活動報告

渉外委員会では、看護教育に関する関連省庁や関係団体の動きに関する情報収集及び関連団体との連携活動を行いながら、本協会の発展に向けた取り組みを検討するための活動を行っている。

1) 要望書の提出

2023 年度の要望書の発出に際し、事前に会員校より意見を聴取した。出された意見を踏まえ、自民党厚生労働部会看護問題小委員会（9 月 5 日開催）に、2024 年度概算請求に対し下記のとおり看護教育の問題提示と看護政策の要望を行った。

- ・ 看護教員の養成と雇用および臨地実習施設における教育要員の配置
- ・ 看護学教育機関ならびに実習施設を含めた ICT の活用体制の整備
- ・ 看護学教育のためのシミュレーション機器等の整備の充実と教育支援の体制整備
- ・ 看護系大学が使用可能な教材作成や教育支援のためのプラットフォームの構築と構築に向けた調査・研究
- ・ 地域における「健康危機管理ができる看護人材の育成」のための看護学教育の改革

2) 関係諸団体との連携

- ・ 4 月 1 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会委員に前年度より継続し坂本真理子理事が就任
- ・ 4 月 11 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席
- ・ 5 月 31 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席
- ・ 6 月 9 日：JABNE 定時評議員会 Web 会議に島袋香子理事が出席
- ・ 8 月 1 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席
- ・ 8 月 29 日：JANPU 高等教育行政委員会 Web 会議に島袋香子理事が出席
- ・ 8 月 29 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席

- ・ 9 月 5 日：自民党看護問題小委員会に井上智子理事が出席
- ・ 9 月 20 日：日本看護協会 ICN 事務局長懇親会に島袋香子理事が出席
- ・ 9 月 25 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席
- ・ 12 月 19 日：自民党、厚生労働省、文部科学省、JANPU との会議

開催方法：Zoom による Web 会議

出席者：（参議院議員）石田昌宏、友納理緒

（日本看護系大学協議会）鎌倉やよい、岸恵美子、石垣和子、宮本千津子、春山早苗、事務局

（日本私立看護系大学協会）島袋香子、坂本真理子、三国久美、事務局

（厚生労働省）医政局 看護課 2 名

（文部科学省）高等教育局医学教育課 企画官 堀岡伸彦

高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和

総合教育政策局教育 DX 推進室室長補佐 野口宏志（敬称略）

- ・ 1 月 15 日：JANPU 高等教育行政委員会 Web 会議に島袋香子理事が出席
- ・ 1 月 16 日：文部科学省との会議

開催方法：Zoom による Web 会議

出席者：（日本私立看護系大学協会）鎌田佳奈美、河口てる子、島袋香子、長澤正志、三国久美

（文部科学省医学教育課）堀岡伸彦企画官、渡邊美和看護教育専門官、課長補佐、他 1 名

議題：本協会が自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について具体的に説明した。

- ・ 1 月 19 日：日本看護協会との情報交換会に島袋香子理事が出席
- ・ 2 月 5 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席
- ・ 3 月 27 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席

3) 委員会の開催

①将来構想検討委員会との共同会議

日時：2024 年 1 月 12 日（金）13：00～13：35

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、島袋香子、長澤正志、三国久美、（委員）河口てる子

議題：自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について、文部科学省に具体的に説明するための事前検討

②渉外委員会

日時：2024 年 2 月 21 日（水）15：15～15：45

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：坂本真理子、島袋香子、長澤正志、三国久美

議題：

- 1) 2023 年度事業活動報告について
- 2) 2024 年度事業活動計画について

4) 教育学術新聞への掲載

日本私立大学協会が発行する教育学術新聞に令和5年私学関係者「名刺交換」に掲載した。

4. 今後の課題

- ・ 自民党厚生労働部会看護問題小委員会に出す要望書に向けた事前準備を行う。
- ・ 各関係団体との連携を深め、必要な情報を収集し、会員校に還元していく。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営

2. 担当理事および委員（○：委員長）

鎌田 佳奈美（摂南大学）

濱中 喜代（岩手保健医療大学）

○守田 美奈子（日本赤十字看護大学）

3. 2023 年度事業活動報告

1) 会報第 49 号・50 号の発刊

(1) 会報第 49 号は 2023 年 5 月上旬に発刊

- ① 2022 年度事業活動報告
- ② 会員校の特色ある取り組みの紹介
- ③ 理事会報告
- ④ 事務局からのお知らせ

(2) 会報第 50 号は 2023 年 11 月上旬に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介
- ③ 社員総会付帯事業講演会の内容
- ④ 会員校の特色ある取り組みの紹介
- ⑤ 2023 年度研究助成事業の選考結果報告
- ⑥ 役員一覧
- ⑦ 理事会・社員総会報告
- ⑧ 事務局からのお知らせ

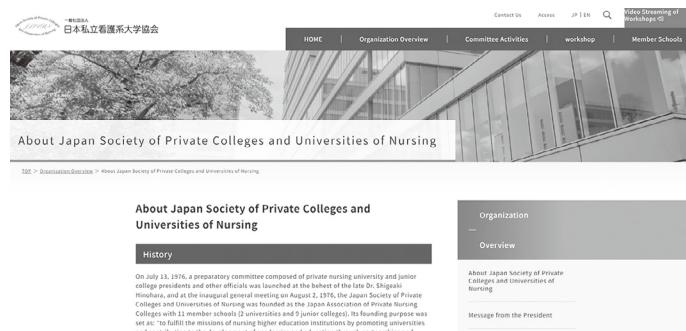


2) ホームページ

- ・ ホームページの利用状況について担当業者から定期的に分析結果の報告を受け、現状を把握し課題に対する改善策を検討してきた。
- ・ アクセス状況は、7月から9月がセッション数が多く、11月から12月は少ない傾向である。1月から2月にかけての研修企画がある場合は、セッション数が増加する。研修や研究助成に関するお知らせなど配信する情報と連動してアクセス数の増減パターンを繰り返している。
- ・ 会員校ページのアクセスも多いため、会員校情報ページの課程の絞り込み機能について、チェックボックスを活用することで、より検索しやすい方法に改善した。各会員校情報を本協会の HP から入手しやすいことが本協会 HP の特徴ともなっていると思われるため、アク

セス数の変化を評価しながら検索方法の検討を継続したい。

- ・研究助成に関する情報は、新規ユーザーの利用が活発であり、研究助成制度に関する会員の関心が高いことが分かる。
- ・英語ページの充実を図るための検討を行い、HP に自動翻訳機能を用いた方法を検討した。翻訳機能の活用により本協会の HP 内容の多くが、迅速に英文ページに反映されることになり利便性が高まることに繋がる。



3) 2022 年度年次報告書の発刊

2023 年 7 月初旬に発刊

4) 委員会の開催

第 1 回 広報委員会

日時：2023 年 4 月 27 日（木）14：00～15：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏、禰覇氏

議題：

1. ホームページのアクセスレポートと改善案について
 - (1) アクセスレポートの報告
 - (2) 改修について
2. 会報第 50 号の記事構成について

第 2 回 広報委員会

日時：2023 年 8 月 1 日（火）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏、染谷氏

議題：

1. ホームページのアクセスレポートと改善案について
 - (1) アクセスレポートの報告
 - (2) 会員校情報ページについて

- (3) 英語ページについて
2. 会報第 50 号の記事構成について
3. 委員会活動の拡充について

第 3 回 広報委員会

日時：2023 年 11 月 6 日（月）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏

議題：

1. ホームページについて
 - (1) アクセスレポートの報告
 - (2) コーディア（株）からのご要望
 - (3) 看護の魅力を社会に向けて発信するページについて
 - (4) 英語ページの作成について
2. 2024 年度事業活動について

第 4 回 広報委員会

日時：2024 年 2 月 5 日（月）10：00～11：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏

議題：

1. ホームページについて
 - (1) アクセスレポートの報告
 - (2) 英語ページの作成について
2. 2024 年度事業活動計画
3. 2023 年度事業活動報告
4. 会報第 51 号について
5. 今後のスケジュール

4. 今後の課題

- 1) HP に関する定期的な業者との打ち合わせ会議を継続すると同時に、迅速かつ適切な情報配信を行うことで HP の充実を図る。
- 2) 新デザインのニュースレター発行（年 2 回）を継続すると同時に、さらなる紙面の充実を図る。
- 3) 看護の魅力を社会に発信するための広報活動の検討を行う。
- 4) 英語ページの充実を図る。

7. 将来構想検討委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の役割と機能の強化に向け、私立大学としての課題と看護学教育及び看護学研究の具体的な課題の明確化と今後の方向性について具体的方策の提案

2. 担当理事および委員（○：委員長）

鎌田 佳奈美（摂南大学）

坂本 真理子（愛知医科大学）

○三国 久美（北海道医療大学）

（委員）河口 てる子（聖隷クリストファー大学）（2023 年 7 月 29 日から）

3. 2023 年度事業活動報告

将来構想検討委員会は、本協会の財政的基盤を踏まえ、将来を見据えた組織や活動のあり方を検討し、本協会が取り組む課題を明確にし、私立看護系大学の発展に結びつく活動を推進するため、2023 年度に組織化された委員会である。2023 年度は、私立看護系大学の課題を明らかにし、その解決に向けた活動を行うこと、そして、少子高齢化が進展する中、本協会に求められる事業を新たな視点で検討し事業活動を推進させることという 2 つの趣旨に沿って活動を行った。具体的な活動内容として、各委員会に活動の見直しと拡充の検討を依頼するとともに会員校のさらなる連携と協力を推進するため地区活動委員会の設置を提案した。また、会員校の看護学教育の推進に資する助成を行うことを目的としたポストコロナにおける看護学教育推進事業の検討を行った。さらに、本協会の諸問題に関する調査研究を行う私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置について検討した。

1) 委員会の開催

(1) 第 1 回委員会

日時：2023 年 6 月 14 日（水）16：30～18：00

開催方法：Zoom を用いた Web 開催

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、三国久美、（会長）島袋香子

議題：

- 1) 委員長の決定
- 2) 2023 年度将来構想検討委員会の事業活動について
- 3) 協会の事業活動計画について
- 4) 次回委員会の開催

(2) 第 2 回委員会

日時：2023 年 7 月 16 日（日）12：50～15：20

会場：駅前会議室アーバン（神奈川県横浜市西区高島 2 丁目 11-2 スカイメナー横浜 709 号室）

出席者：鎌田佳奈美、坂本真理子、三国久美

議題：事業活動計画について

(3) 第3回委員会

日時：2023年10月16日（月）15：00～16：20

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、三国久美、（委員）河口てる子

議題：

- 1) 委員会活動の拡充について
- 2) 私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置
- 3) 委員会活動以外の事業案

(4) 第4回委員会

日時：2024年2月17日（土）9：00～10：00

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、三国久美、（委員）河口てる子

議題：

- 1) 事業活動について
- 2) 2024年度将来構想検討委員会事業活動計画案について
- 3) 2023年度将来構想検討委員会事業活動報告について
- 4) 今後の理事会・社員総会 スケジュール
- 5) その他

2) 執行部理事との共同会議

日時：2024年1月12日（金）13：00～13：35

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：（理事）鎌田佳奈美、坂本真理子、島袋香子、長澤正志、三国久美、（委員）河口てる子

議題：自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について、文部科学省に具体的に説明するための事前検討

3) 文部科学省との会議

日時：2024年1月16日（火）15：30～16：30

開催方法：ZoomによるWeb会議

出席者：

（日本私立看護系大学協会）

鎌田佳奈美、河口てる子、島袋香子、長澤正志、三国久美（五十音順、敬称略）

（文部科学省医学教育課）

堀岡伸彦企画官、渡邊美和看護教育専門官、課長補佐 他1名

議題：本協会が自民党看護問題小委員会へ提出した要望書の内容について具体的に説明した。

4. 今後の課題

- ・ 会員校は、看護の質向上や人材育成だけでなく、地域住民の健康支援を行う役割を担っており、感染症の流行や災害等の発生時には住民の健康危機に対応すべく尽力している。会員校の更なる連携と協力を推進させるために求められる本協会の事業活動を検討する。
- ・ 私立看護系大学には、時代の変化を見据え、教育・研究・経営力を研ぎ、魅力的な大学として自校の特性をアピールできる対策を打ち出していくことが必要である。同時に私立看護系大学が抱えている課題を社会にアピールし、政策支援を得ることが必要である。これらの課題に対応し、日本私立看護系大学協会としての活動や会員校を支援するための調査研究を行う将来構想研究機構（仮称）の設置について継続して検討する。

8. 2023 年度特別事業 地区活動について

2023 年度は 2022 年度に引き続き地区活動の在り方を検討するため、各地区における会員校の協働活動に助成を行うモデル事業を実施した。

地区内の会員校による協働事業であれば、どのような協働でも申請は可能とし、1 件の予算の上限は 200 万円程度、3 件の事業を採択した。

採択された 3 つのモデル事業を通じ、会員校の地区における協働を進め、看護学教育の発展に寄与する新たな活動の在り方を探索し、運営上の課題も明らかにすることができた。

1. 事業目的

- ・地区活動を通じたネットワークづくりにより、私立看護系大学の協働体制を進め、安定した看護学教育の推進を図る。
- ・私立看護系大学が共有する課題に協働して取り組む。
- ・看護学の発展を担う人材を確保する。

2. 採択事業（3 件）

(1) 愛知県

「看護学の魅力を発信しよう～将来の看護を担うあなたへ～」

愛知医科大学、一宮研伸大学、金城学院大学、修文大学、椋山女学園大学、中部大学、豊橋創造大学、名古屋学芸大学、名古屋女子大学、日本赤十字豊田看護大学、日本福祉大学、人間環境大学、藤田医科大学（13 校）

開催日時：2023 年 12 月 25 日（月）10 時から 16 時

開催場所：名古屋国際センター別棟ホール・展示室

内容：AYA 世代がん支援、VR 体験、現役ナースと学生との懇談会、クイズラリー、フォトブースなど

(2) 新潟県

「見て、聞いて、学びあう新潟プロジェクト～つなごう、看護の魅力～にいがた発～」

長岡崇徳大学、新潟青陵大学、新潟医療福祉大学、新潟薬科大学（4 校）

内容：

事業 1：新潟県内の看護系大学生交流イベント、合同講義・演習

県内会員校の 4 大学の看護学生が一堂に会し、合同講義・演習などを通して交流を行うことで、相互の看護を志望する意欲を高め合う。4 つの看護系大学を会場として、各大学半日ずつ、2 回に分けて行った。

【A コース】2 月 22 日（木）

〈午前〉新潟青陵大学：専門職別ミニ講義（キャリア教育）と卒業前看護技術演習見学

〈午後〉新潟医療福祉大学：学生企画・主催のキャンパスツアーとアイスブレイク

【B コース】2 月 28 日（水）

〈午前〉新潟薬科大学新津キャンパス：目指せ、看護のキャリアアップ！

〈午後〉長岡崇徳大学：高齢者総合センターで学ぶ地域包括ケア

事業 2：若い世代に向けた看護の魅力発信のための啓発媒体の作成

事業 1 の県内私立看護系大学 4 校の連携による取り組みの実際を動画編集した媒体を作成した。県内私立大学の魅力発信のために、看護学生はじめ、高校生など広く社会に向けて、今後、普及・啓発活動など、各大学での広報活動に活用していく。

(3) 大阪府

看護職のスタートを地域の教育機関と臨床現場の双方から支援する

「祝卒業 フォローアップ研修」

藍野大学、摂南大学（2 校）

開催日時：2024 年 3 月 14 日（木）第 1 部（9：00～12：00）第 2 部（13：30～16：00）

開催場所：藍野大学

内容：卒業する看護大学生を対象とした看護技術演習を 2 部に分けて開催した。

第 1 部「災害看護―看護者としての被災者体験―」

第 2 部「超実践的！ 看護技術演習」